

2022 年 度

定 時 総 会 資 料

公益社団法人 日本経営工学会

公益社団法人 日本経営工学会

2022 年度定時総会次第

1. 開会の辞
2. 出席者数報告
3. 議長の選任
4. 議事録署名人の指名
5. 会長挨拶
6. 報告事項
 6. 1 2021 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告
及び収支決算報告
 6. 2 監査報告
 6. 3 2022 年度事業計画, 収支予算報告
 6. 4 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件
7. 審議事項
 - 第一号議案 2021 年度事業報告及び収支決算報告の件
 - 第二号議案 名誉会員推戴の件
8. 閉会の辞

6. 報告事項

6. 1 2021 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告

6. 1. 1 2021 年度事業報告, 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告

[I] 研究発表会, 学術講演会, 報告会等の開催(定款第 4 条第 1 号): 大会委員会

(1) 春季大会

日時: 2021 年 5 月 15 日(土)~16(日)

場所: オンライン開催(早稲田大学)

大会組織委員長: 大野 高裕

(2) 秋季大会

日時: 2021 年 11 月 6 日(土)~7 日(日)

場所: オンライン開催(近畿大学)

大会組織委員長: 古殿 幸雄

テーマ:「ニューノーマル時代における経営工学の挑戦」

[II] 会誌その他の図書刊行(定款第 4 条第 2 号)

(1) 日本経営工学会論文誌(Journal of Japan Industrial management Association):

日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.72, No.1~No.4, No.2E, No.4E を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
2021 年 04 月 15 日	72	1	1,300
2021 年 07 月 15 日	72	2, 2E	1,300
2021 年 10 月 15 日	72	3	1,300
2022 年 01 月 15 日	72	4, 4E	1,300

原著論文(調査研究)2 件, 原著論文(理論・技術)

13 件(うち特集号 3 件), 原著論文(事例研究)14

件(うち特集号 1 件), 研究速報 1 件(うち特集論文

1 件)を収録した。

経営システム(Communications of JIMA):

経営システム誌編集委員会

Vol.31, No.1・No.2 を発行した。

発行年月	巻	号	発行部数
2021 年 07 月 15 日	31	1	1,800
2022 年 01 月 15 日	31	2	1,800

[III] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款 4 条第 3 号)

2021 年度 学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告: 表彰委員会

(1) 学会賞(学術)

肥田 拓哉(青山学院大学)

対象業績: 検査作業における人間工学的評価に関する研究

推薦理由:

肥田拓哉氏は、本学会の主要な分野の 1 つである品質検査に関わる研究を人間工学の観点から行っている。検査の自動化が進む現状でも、人の触覚や目視による検査はその自由度の高さから依然として広く生産現場で利用

されている。また検査の対象や方法は、時代とともに変化し、人の負担と品質に折り合いをつけなければならない新しい場面が次々と生まれている。その中で肥田氏は、人の作業姿勢を計測・評価する人間工学の手法を広く活用し、多くの要因が絡む品質検査作業の特徴を的確にとらえて研究を進めている。実作業に即した新たな計測と評価の手法の構築にも取り組んでおり、従来の枠にとられない先進性も持っている。肥田氏の研究が常に生産現場と密着した観点で行われていて実用性が高い点や、経営工学の人材育成につながる研究にもチャレンジされている点は、すでに経営工学分野の発展に直接的に寄与していると言えるところである。

肥田氏は、日本経営工学会論文誌へ合計 11 編(うち、筆頭著者として 9 件)の論文が採択されており、JIMA への貢献は高い。JIMA の全国大会や JIMA 共催の国際学会である APIEMS あるいは他の関連学会においても、筆頭あるいは共著として多くの論文を出している。自身の研究活動のみならず、後進の育成、指導にも精力的に力をいれていることが伺える。

以上の理由により、肥田拓哉氏を学会賞(学術)候補者として推薦する。

論文リスト: <日本経営工学会論文誌より抜粋>:

1. 触覚検査作業における基準高さと比較高さが段差の判別精度に及ぼす影響, 肥田 拓哉, 岸 一輝, 松本 俊之, 日本経営工学会論文誌, 2021 年 71 巻 4 号, pp.199-206
2. 大型製品の組立作業における組付け高さと組付け方向に着目した作業姿勢評価法の提案, 肥田 拓哉, 相川 創, 岡田 貴斗, 松本 俊之, 日本経営工学会論文誌, 2017 年 68 巻 3 号, pp.171-178
3. グローバル生産を学習するためのボードゲーム“GMG”を用いた教育方法の提案, 肥田 拓哉, 竹田 紋, 中嶋 良介, 松本 俊之, 日本経営工学会論文誌, 2017 年 68 巻 2 号, pp.109-119
4. 触覚検査作業における上肢負担と検査精度の関係, 肥田 拓哉, 行縄 拓海, 瀬尾 明彦, 日本経営工学会論文誌, 2016 年 67 巻 3 号, pp.216-224
5. 作業姿勢設計支援システムにおける作業補助具装着時の作業負担評価手法の提案, 肥田 拓哉, 三浦 一記, 江口 正修, 梶原 康博, 日本経営工学会論文誌, 2016 年 67 巻 1 号, pp. 29-36
6. 目視検査作業における検査対象面と把持位置が上肢負担に与える影響, 肥田 拓哉, 瀬尾 明彦, 日本経営工学会論文誌, 2015 年 65 巻 4 号, pp.260-267
7. 触覚検査作業における手関節の負担軽減方法の検討, 行縄 拓海, 肥田 拓哉, 瀬尾 明彦, 日本経営工学会論文誌, 2014 年 65 巻 2 号, pp.70-77
8. 触覚検査作業における検査対象面の角度と検査経路が上肢負担に与える影響, 行縄 拓海, 肥田 拓哉, 瀬尾 明彦, 日本経営工学会論文誌, 2013 年 64 巻 2 号, pp.138-144
9. 目視検査作業における検査速度と検査経路が上肢負担に与える影響, 肥田 拓哉, 茅原 崇徳, 瀬尾 明彦, 日本経営工学会論文誌, 2013 年 64 巻 1 号, pp.1-8
10. 目視検査作業における検査対象物の大きさと把持位置が上肢負担に与える影響, 肥田 拓哉, 茅原 崇徳, 瀬尾 明彦, 日本経営工学会論文誌, 2013 年 63 巻 4 号, pp.217-

11. 把持対象物の形状と作業面の高さが上肢負担に与える影響, 肥田 拓哉, 茅原 崇徳, 瀬尾 明彦, 日本経営工学会論文誌, 2011 年 62 巻 5 号, pp.222-229

(2) 学会賞 (功労)

該当者なし

(3) 論文賞

林 千宏 (日本フイルコン株式会社, 東京都立大学), 山本久志 (東京都立大学), 大場 允晶 (日本大学), 丸山 友希夫 (日本工業大学), 中邨 良樹 (青山学院大学)

固定ロットサイズ見込生産環境における生産座席予約システムに関する研究, 日本経営工学会論文誌, Vol.72, No. 2, pp. 110-122 (2021)

推薦理由:

本論文は製造工程を一種の座席と見立て、飛行機や新幹線の座席を予約する様に生産スケジュールを立案する生産座席予約システムにおいて、前段階での座席枠設定のための管理パラメータ推定方法を提案している。見込生産環境下では、需要予測に従って製品を生産し、製品在庫から需要に対応することになる。生産座席予約システムでは、日々の座席枠設定が生産能力を決定することになり、この設定が品切れや過剰在庫に大きく影響を及ぼすことになるため、管理パラメータの推定はシステムを管理する上で非常に重要である。本論文は著者自身の先行研究をもとにモデルが拡張され、先行研究での評価指標に段取り替え作業負荷と空席の指標を追加することで、より見込生産環境を再現している。さらに、パラメータ推定には解析ソフトウェアの機能を活用するなど、実務でも導入しやすいものになっている。

以上より、本論文は経営工学の産業界での活用に寄与するものであり、提案手法のより一層の学術的論証とともに、さらなる発展が期待されるものとして、論文賞の最終候補論文として推薦する。

(4) 論文奨励賞

Kazuki HIRANAI (Tokyo Metropolitan University)

Detection of Anomalies in Working Posture during Obstacle Avoidance Tasks using One-Class Support Vector Machine, Journal of Japan Industrial Management Association, Vol.72, No.2E, pp.125-133 (2021)

推薦理由:

生産作業の効率化と負担軽減を実現するためには、作業状況を観察・分析し適切な改善を行う必要がある。作業分析に当たって、作業姿勢の評価方法として、Ovako Working Posture Analysis System (OWAS)や RULA(Rapid Upper Limb Assessment)がよく知られている。特に RULA では、関節の曲げ角度を用いることで作業姿勢を評価する。本論文では、機械学習手法の一つである One Class Vector Support Machine を用いた障害物回避作業における異常検知手法を提案した。さらに、提案手法と RULA に基づく手法の結果を比較し、その有用性を示した。残念ながら、異常検知に至った結果に対して、いずれの要素が作業負荷の増加に至ったのかを示す方法にまでは検討が及んでいない。現実問題への適用するにあたって検討

すべき問題はあるが、分析の根幹をなす学術的研究として評価が与えられるべきものと考えられる。

以上の理由により、本論文は経営工学的技術の学術的發展を提供し、また産業界での活用に寄与することが期待できるものであり、論文奨励賞の最終候補者として選出した。

(5) 特別賞 経営工学実践賞

香取 徹 (株式会社アゼスト)

「自動車販売店における動画解析技術を用いた顧客行動の可視化と結果の活用」

経営システム, Vol.31, No.1, pp. 34-40 (2021)

推薦理由:

本稿では、一般の顧客向けに稼働しているオフライン型の自動車販売店に対して、動画解析技術を用いて顧客の属性や行動データを自動で取得できるシステムを導入し、そこから得られた知見や、得られた結果が実際の経営における意思決定にどのように活用されたのかについて詳細に述べられている。具体的には、2018 年 10 月～2020 年 3 月に執筆者が所属している株式会社アゼストの Active Stream というシステムをネットヨタ東埼玉イオンレイクタウン店に導入し、従来システムとの比較を行いながら、人手では大変な作業となるデータ取得を自動で実施し、そのデータに基づくマーケティング活動の有用性について述べられている。動画解析技術によって何が実現でき、取得されたデータをどのように扱うのかについてわかりやすく記述されており、経営工学が得意とする現場改善に動画解析技術を用いる事例としては、実務家にとって大変参考になると考えられることから、経営工学実践賞として推薦する。

齋藤 雅之 (株式会社カスミ)

「物流危機に対応したカスミの物流戦略」

経営システム, Vol.31, No.1, pp. 64-69 (2021)

推薦理由:

本稿では、コロナ禍における未曾有の危機的状況において発生した物流現場の問題に関して、同社は「物流現場自らが問題を発見し、自発的行動を起こす」ことを物流現場に必要な改善の『本質』として捉え、協力会社と取り組んできた改善活動が詳しく述べられている。具体的には、(1)店舗スタッフとの連携によるドライバーの負担軽減の改善事例、(2)店舗配送ドライバーと、センター構内作業員との連携による商品積み方改善事例を取り上げている。また、現場での問題発見から関連部署との連携を通じた問題解決を目指し、関連会社を含めカスミを中心とした物流現場におけるサプライチェーンの推進活動を実践している。経営工学が得意とする現場改善に、より包括的にサプライチェーンとして取り組んでいる事例としては、実務家にとって大変参考になると考えられることから、経営工学実践賞として推薦する。

(6) 特別賞 Best Presentation Award

2021 年春季大会

受賞者	所属	演題
良川 太河	早稲田大学	解釈性を有するアンサンブル識別機の効率的な学習法に関する一考察
小野寺 斗弥	岩手県立大学	利用者の時・場所・状態を考慮した Web パーソナライズの提案
佐藤 夏輝	神奈川大学	ロジスティック回帰による目的別不正会計の検知
棚橋 秀斗	岡山大学	ポアソン過程のための状態追跡法
菅原 一将	神奈川大学	数値最適化に基づく仕出し弁当の自動献立作成
眞田 智貴	東京理科大学	ビジネスホテルにおける顧客ロイヤリティ向上のための要因分析

2021 年秋季大会

受賞者	所属	演題
四分一 康平	上智大学	オーダーピッキングにおける倉庫構造に着目した近似距離を用いた最適化モデルの提案
佐藤 珠希	成蹊大学	3DCG アニメーション機能を用いた組立指示動画作成方法と活用法の提案
安元 優太	筑波大学	評価値の不確実性を考慮した推薦システムの構築
角 柁人	近畿大学	自己組織化写像を用いたカリキュラム・マップの自動作成

(7) 特別賞 優秀学生賞

氏名	大学名	学部学科名
太田 陸	早稲田大学	創造理工学部 経営システム工学科
土屋 哲	福岡工業大学	情報工学部 システムマネジメント学科
前田 基希	名古屋工業大学	工学部 社会工学科 経営システム分野
山田 愛華	近畿大学	工学部 情報学科
石井 優輝	千葉工業大学	社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
小林 珠緒	日本大学	生産工学部 マネジメント工学科
瀧沢 有生	青山学院大学	理工学部 経営システム工学科
遠藤 良洸	秋田県立大学	システム科学技術学部 経営システム工学科
木下 菜々花	成蹊大学	理工学部 システムデザイン学科
岩路 菜子	神奈川大学	工学部 経営工学科
多賀 重敬	筑波大学	理工学群社会工学類 経営工学主専攻

小川 真季	長崎総合科学大学	総合情報学部 総合情報学科マネジメント工学コース
大澤 嘉規	岩手県立大学	ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科
井上 翔太	電気通信大学	情報理工学域 I 類 経営・社会情報学プログラム
中尾 俊太	東海大学	情報通信学部 経営システム工学科
大賀 雄太郎	東京理科大学	理工学部 経営工学科
平塚 健祥	法政大学	理工学部 経営システム工学科
高島 晃大	金沢工業大学	情報フロンティア学部 経営情報学科
田部 直人	大阪府立大学	工学域 情報工学課程
鳥越 悠希	広島大学	工学部 第二類
佐佐木 英之	東京工業大学	工学院 経営工学系
渋谷 壮紀	千葉工業大学	社会システム科学部 経営情報科学科
川俣 和也	東京都市大学	知識工学部 経営システム工学科
菅沼 瑞月	慶應義塾大学	理工学部 管理工学科

以上 24 名

【IV】調査、研究、見学及び視察（定款第 4 条第 4 号）

支部及び研究部会を通して以下の通り活動した。

(1) 支部活動計画：支部委員会

1) 東北・北海道支部

－北海道，青森，岩手，秋田，山形，宮城，福島

支 部 長：寛 宗徳（福島大学）

副支部長：山口 俊憲

（山形県立産業技術短期大学校）

事 務 局：〒960-1296

福島県福島市金谷川 1 番地

福島大学理工学群共生システム理工学類

寛 宗徳

E-mail：kakehi@sss.fukushima-u.ac.jp

① 支部総会

日 時：2022 年 3 月 14 日（月）

会 場：オンライン形式

出席者：4 名

議 題：

（ア）2021 年度支部事業，中間決算報告

（イ）2022 年度支部事業計画，予算案

（ウ）その他

② 運営委員会（4 回）

2021 年 7 月 14 日（水）

2021 年 11 月 18 日（木）

2021 年 11 月 30 日（火）

2022 年 1 月 11 日（火）

- 会 場：電子メール会議
- ③ 研究発表会（1回）
日 時：2022年3月14日（月）
会 場：オンライン形式
発表件数：3件
参加者：9名
- ④ その他
特になし
- ⑤ 支部所属会員数（2022年3月末）
正会員数31名，名誉会員数0名，
学生会員数10名，賛助会員数0社

2) 関東支部

一茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川，山梨
支 部 長：大久保寛基（東京都市大学環境学部）
事 務 局：〒227-0067

東京都八王子市東中野742-1
中央大学 商学部 #21267
事務局担当者名 斎藤 正武
E-mail: msaito@tamacc.chuo-u.ac.jp
<https://sites.google.com/view/jima-kanto/>

- ① 支部運営委員会（第1回）
日 時：2021年7月10日（土）
会 場：オンライン形式
議 題：
（ア）支部運営の体制について
（イ）学生論文発表会の開催校について
- ② シンポジウム
日 時：2022年3月5日（土）
会 場：オンライン形式
出席者：100名
テーマ：「女性が変わる経営工学のキャリアパス！」
コーディネーター：斎藤 文（産業能率大学 教授）
パネリスト：杉山 尚美、大森 永理香、大阿久 乃亜
- ③ 学生論文発表会
日 時：2022年3月5日（土）
会 場：オンライン形式
開催準備校：東京都市大学
発表件数：63件
- ④ 支部所属会員数（2022年3月末）
正会員数538名，名誉会員数15名，
学生会員数105名，賛助会員数11社

3) 中部支部

一愛知，岐阜，三重，静岡
支 部 長：荒川 雅裕（名古屋工業大学）
事 務 局：〒466-8555
名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学工学部都市社会工学科内
事務局担当者名 荒川 雅裕
TEL：052-735-7408
E-mail: arakawa.masahiro@nitech.ac.jp
<http://pse.web.nitech.ac.jp/JIMA>
<http://www.jimanet.jp/office/branch/chubu/>

- ① 研究発表会（1回）
日 時：2022年2月21日（月）
会 場：オンライン形式（幹事校：名古屋工業大学）
発表件数：4件
参加者：8名
- ② 講演会（1回）（事業市場研究部門 協賛）
日 時：2022年2月21日（月）
会 場：オンライン形式（幹事校：名古屋工業大学）
演 題：サービスの設計と持続型ビジネスモデルの構築
ーペルソナ分析を利用したサービス設計ー
講 師：荒川 雅裕氏
（名古屋工業大学大学院 教授
事業・市場研究部門 幹事）
- ③ シンポジウム（3回：事業・市場研究部門との共催）
（ア）第1回講演会
日 時：2022年2月5日（土）13:00～15:00
参加者：20名
題 目：「Society 5.0 for SDGs」を推進する
未来戦略デザインの人材開発
講 師：玉木 欽也氏
（青山学院大学 教授
事業市場研究部門 幹事）
題 目：世界で戦えるAI チーム育成と
SDGs への挑戦
ー社会的課題へのアプローチと
ハッカソンチャレンジャー
講 師：細井 一雄氏
（情報技術開発株式会社）
パネルディスカッション
パネラー：玉木 欽也氏
（青山学院大学 教授）
荒川 雅裕氏
（名古屋工業大学 教授）
- （イ）第2回講演会
日 時：2022年2月12日（土）13:00～15:00
参加者：20名
題 目：未来戦略デザイン・システム
クリエイター
ーサービスの開発視点によるIoT/DX
ビジネスモデルの構築法ー
講 師：荒川 雅裕氏
（名古屋工業大学 教授
事業・市場研究部門 幹事）
題 目：DX 前コンサルティングで求められる
人材育成
クリエイター
ーサービスの開発視点によるIoT/DX
ビジネスモデルの構築法ー
講 師：矢島 彩子氏
（オーグス総研）
パネルディスカッション
パネラー：荒川 雅裕氏
（名古屋工業大学 教授）
矢島 彩子氏
（オーグス総研）

(ウ) 第3回講演会

日 時：2022年3月24日(木) 18:30～20:30

参加者：35名

題 目：未来戦略デザイン：Circular Economy
指向SDGs & Circular Economy志向
(VCM)

講 師：新目 真紀氏

(職業能力開発総合大学校 准教授
事業市場研究部門 部門長)

題 目：メタバース市場を担う人材の育成方法

講 師：三淵 啓自氏

(デジタルハリウッド大学大学院)

パネルディスカッション

パネラー：玉木 欽也氏

(青山学院大学 教授)

荒川 雅裕氏

(名古屋工業大学 教授)

④ 支部所属会員数(2022年3月末)

正会員数81名, 名誉会員数4名,

学生会員数8名, 賛助会員数1社

4) 北陸支部

一石川, 富山, 福井, 新潟, 長野

支 部 長：中野 真(金沢工業大学)

副支部長：石原 正彦(金沢工業大学)

事 務 局：〒921-8501

野々市市扇が丘7-1

金沢工業大学基礎教育部修学基礎教育課程

事務局担当者名 中野 真

TEL：076-248-9758

FAX：076-294-6701

E-mail：mnakano@neptune.kanazawa-
it.ac.jp

http://jima-hokuriku.labos.ac/

① 運営委員会

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

② 事例研究会

[新型コロナウイルス感染症の影響により中止]

③ 学生論文発表会(日本品質管理学会中部支部共催)

日 時：2022年2月26日(土)

会 場：オンライン形式

発表件数：5件

参加者：13名

④ 支部所属会員数(2022年3月末)

正会員数28名, 名誉会員数0名,

学生会員数3名, 賛助会員数1社

5) 関西支部

一大阪, 京都, 兵庫, 和歌山, 奈良, 滋賀

支 部 長：寺島 和夫(龍谷大学)

副支部長：間島 勝彦(公益財団法人日本技術士会)

事 務 局：〒577-8502

大阪府東大阪市小若江3-4-1

近畿大学理工学部機械工学科

生産マネジメント工学研究室内

事務局担当者名 竹本 康彦

TEL：06-4307-4330

E-mail：jima.kansai@gmail.com

https://sites.google.com/site/jimakansai/

① 支部総会

日 時：2021年6月26日(土)

会 場：オンライン形式

出席者：20名

議 題：

(ア) 2020年度支部事業報告

(イ) 2020年度支部決算報告

(ウ) 2021年度支部事業計画案

(エ) 2021年度支部予算案

(オ) 関西支部役員の選任

(カ) その他(全国大会, 他)

特別講演会

題 名：メタ戦略に魅せられて

講 師：谷崎 隆士(近畿大学)

参加者：37名

② 委員会(5回)

(ア) 第1回運営委員会

日 時：2021年6月26日(土)

方 法：電子メールによる配信・意見聴取

出席者：17名

(イ) 第2回運営委員会

日 時：2021年8月30日(月)

会 場：オンライン形式

出席者：18名

(ウ) 第3回運営委員会

日 時：2021年10月28日(木)

会 場：オンライン形式

出席者：12名

(エ) 第4回運営委員会

日 時：2021年12月10日(金)

会 場：オンライン形式

出席者：11名

(オ) 第5回運営委員会

日 時：2022年2月25日(金)

会 場：オンライン形式

出席者：16名

③ セミナー(2回)

(ア) 第1回経営工学セミナー(日本経営システム学会関西支部・日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会共催)

日 時：2021年10月28日(木)

会 場：オンライン形式

題 名：オンラインとオフラインの融合に向き
合うサプライチェーン・マネジメント

講 師：佐野 宏樹(立命館大学)

題 名：作業分析ソフト『タイムプリズム』を活用した
作業改善事例とビデオ解析ツールの課題

講 師：野村 和史(株式会社日本生工技研)

出席者：30名

(イ) 第2回経営工学セミナー(日本経営システム学会
関西支部・日本セキュリティ・マネジメント

学会関西支部研究会共催，日本情報経営学会関西支部協賛)

日 時：2022 年 2 月 25 日 (金)

会 場：オンライン形式

題 名：生産性向上研修における体験型模擬演習の活用事例のご紹介

講 師：香川 博昭 (香川改善オフィス)

題 名：新規事業アイデア創出におけるロジカルシンキングとデザインシンキング

講 師：後藤 智 (立命館大学)

出席者：30 名

④ 見学会 (1 回)

(ア) 第 1 回工場見学会 (日本設備管理学会関西支部共催)

日 時：2021 年 4 月 15 日 (木) 14:00-16:00

参加者：16 名

見学先：株式会社パトライト 三田工場 様
※Zoom によるオンライン見学

見学テーマ：生産現場の可視化による生産性向上の取り組み

⑤ 学生論文発表会 (1 回)

(日本経営システム学会関西支部共催，日本セキュリティ・マネジメント学会関西支部研究会協賛)

日 時：2022 年 3 月 5 日 (土)

会 場：オンライン形式

発表件数：12 件

優秀学生発表賞：2 件

参加者数：48 名

⑥ 支部所属会員数 (2022 年 3 月末)

正会員数 132 名，名誉会員数 5 名，

学生会員数 7 名，賛助会員数 2 社

6) 中国四国支部

一鳥取，島根，岡山，広島，山口，香川，愛媛，高知，徳島

支 部 長：森川 克己 (広島大学)

副支部長：石原 良晃 (大島商船高等専門学校)

神垣 太持 (広島工業大学)

徐 祝旗 (愛媛大学)

事 務 局：〒739-8527

広島県東広島市鏡山 1-4-1

広島大学大学院先進理工系科学研究科内

事務局担当者名 森川 克己

TEL：082-424-7704

E-mail：cs.jima@gmail.com

<https://sites.google.com/site/csajima/>

① 支部総会

日 時：2021 年 6 月 5 日 (土)

会 場：オンライン形式

議 題

(ア) 2020 年度事業報告，決算報告

(イ) 2021 年度・2022 年度支部役員の承認

(ウ) 2021 年度事業計画，収支予算

② 支部役員会 (3 回)

(ア) 第 1 回

日 時：2021 年 6 月 5 日 (土)

会 場：オンライン形式

議 題：支部総会審議事項

(イ) 第 2 回

日 時：2021 年 10 月 28 日 (木)

会 場：オンライン形式

議 題：2022 年秋季大会の開催場所等
学生論文発表会の開催日と形態

(ウ) 第 3 回

日 時：2022 年 2 月 22 日 (火)

会 場：オンライン形式

議 題：支部長賞

今年度の支部事業報告・決算報告

次年度の支部事業計画・予算

③ 講演会 (3 回)

(ア) 第 1 回

日 時：2021 年 6 月 5 日 (土)

会 場：オンライン形式

題 目：企業における情報通信システムの運営とネットワーク構築の実際

講 師：恵比奈 卓司 氏 (元システムエンジニア)

出席者：11 名

(イ) 第 2 回

日 時：2021 年 11 月 19 日 (金)

会 場：オンライン形式

題 目：コロナ禍がもたらした資材調達変革の取り組み

講 師：古屋 光大 氏 (ユニ・チャーム株式会社 購買部長)

出席者：30 名

備 考：日本生産管理学会 中国・四国支部との共催

(ウ) 第 3 回

日 時：2022 年 2 月 22 日 (火)

会 場：オンライン形式

題 目：(公財) ひろしま産業振興機構のもののづくり DX 推進の取り組みについて

講 師：荒井 康平 氏，久保田 寛 氏，長光 寛晋 氏 (ひろしま産業振興機構 常務理事)

出席者：32 名

④ 学生論文発表会 (1 回)

日 時：2022 年 2 月 22 日 (火)

会 場：オンライン形式

発表件数：16 件

参加者数：31 名

⑤ 支部表彰

支部長賞：3 件

優秀研究発表賞：4 件

研究発表賞：12 件

⑥ ICIM (International Conference on Industrial Management)

日 時：2021 年 9 月 8 日 (水)

会 場：オンライン形式

参加者数：10 名 (日本側 6 名，中国側 4 名)

⑦ 支部所属会員数 (2022 年 3 月末)

正会員数 61 名，名誉会員数 2 名，

学生会員数 5 名，賛助会員数 1 社

7) 九州支部

ー福岡，佐賀，熊本，大分，長崎，宮崎，鹿児島，沖縄

支 部 長：俣 徠 三十六（日本文理大学）

副支部長：泉 丙完（日本文理大学）

田嶋 拓也（福岡工業大学）

事 務 局：〒811-0295

福岡市東区和白東 3-30-1

福岡工業大学情報工学部

システムマネジメント学科内

事務局担当者名 小林 稔（Ms. 道下）

TEL：092-606-5930

FAX：092-606-0756

E-mail：kanjim@fit.ac.jp

http://www.fit.ac.jp/~t-tajima/JIMA/

① 支部総会

日 時：2021 年 9 月 18 日（土）13:10-13:40

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研室 1
（Zoom によるハイブリッド開催）

参加者：20 名（委任状 9 名を含む）

（ア）議題

A) 会員在籍状況・入退会状況報告

B) 2020 年度事業報告

C) 2020 年度会計（決算）報告

D) 2021 年度事業計画，役員

E) 2021 年度予算

F) 表彰対象の決定

G) その他 2021 年度第 2 回研究会についてなど

（イ）意見交換会

② 運営委員会（支部幹事会）（2 回）

（ア）第 1 回

日 時：2021 年 10 月 30 日（土）12:30-13:40

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研室 1
（Zoom によるハイブリッド開催）

参加者：17 名（委任状 7 名を含む）

（イ）第 2 回

日 時：2021 年 12 月 11 日（土）12:20-13:10

会 場：長崎大学 ICT 基盤センター センター
長室（Zoom によるハイブリッド開催）

参加者：17 名（委任状 10 名を含む）

③ 定例セミナー（1 回）

（協賛 日本生産管理学会九州支部主催）

日 時：2021 年 10 月 30 日（土）

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研室 1

第 1 発表 13:50-14:50

題 名：小学校におけるクラス再編成問題の最適化

講 師：宋 宇（福岡工業大学）

第 2 発表 15:00-16:00

題 名：データサイエンスをどう教えるのか？

講 師：高橋 啓（福岡工業大学）

参加者：15 名

④ 研究会（2 回）

（ア）第 1 回

日 時：2021 年 9 月 18 日（土）

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階 研究室・卒研

室 1（Zoom によるハイブリッド開催）

第 1 発表：13:50-14:50

題 名：多品目単一機械動的ロットサイズスケジューリング問題に対する代理劣勾配法の適用

講 師：小林 稔（福岡工業大学）

第 2 発表：15:00-16:00

題 名：イノベーションによる社会変革

講 師：泉 丙完（日本文理大学）

参加者：12 名

（イ）第 2 回

日 時：2021 年 12 月 11 日（土）

会 場：長崎大学 ICT 基盤センター センター
長室（Zoom によるハイブリッド開催）

第 1 発表 13:10-14:10

題 名：「新型コロナウイルスが運送業にもたらした影響について」－トラック運送業を中心として－

講 師：大塚 淳子（コンサルティング Office ジェイティス）

第 2 発表 14:20-15:20

題 名：MAI 改訳版によるメタ認知の測定と情報基礎科目の学習成果との関係

講 師：丹羽 量久（長崎大学 ICT 基盤センター）

第 3 発表 15:30-16:30

題 名：テーブル型ボードゲームを用いた教材開発および教育的効果について

講 師：挟間 雅義（宇部工業高等専門学校）

参加者：8 名

⑤ 第 48 回学生論文発表会

日 時：2022 年 2 月 26 日（土）11:00-17:30

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階演習室 3（Zoom によるハイブリッド開催）

発表件数：14 件

参加者：30 名

⑥ 見学会

〔新型コロナウイルス感染症の影響により中止〕

⑦ 学生会講義会

日 時：2022 年 1 月 12 日（水）14:40-16:10

会 場：福岡工業大学 B 棟 8 階多目的室

題 名：社会に貢献する情報の可視化

講 師：丹羽 量久（長崎大学 ICT 基盤センター）

受講生：32 名

⑧ 支部所属会員数（2022 年 3 月末）

正会員数 35 名，名誉会員数 0 名，

学生会員数 1 名，賛助会員数 0 社

（2）研究部門・研究プロジェクト活動：研究委員会

1) 生産・物流部門

（部門長：翁 嘉華）

① 概要

サプライチェーンにおける生産・物流に関する課題に対して，調査研究，理論研究および事例研究を通して多角的に取り組み，解決を目指すことを目的とする。

② 研究部門活動報告

春季大会及び秋季大会にてそれぞれ部門 OS を実施した。また、年度末に産学交流ワークショップも開催した。しかしながら、国際ワークショップは中止となった。

(ア) 生産物流部門第 8 回産学交流会 (2022 年 3 月 12 日・オンライン)

特別講演 1 件、招待発表 2 件、一般発表 4 件、参加者 22 名

③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2021 年春季・研究部門 OS「産学連携の現状と課題」(2021 年 5 月 16 日・オンライン)

- 菅原 一将, 太田 和希, 片桐 英樹: 数理最適化に基づく仕出し弁当の自動献立作成
- 細田 順子: 拠点選定及び配送ルート決定問題を通じた産学連携例
- 赤木 宏匡: 経営工学における産学連携

(イ) 日本経営工学会 2021 年秋季・研究部門 OS「生産・物流分野での産学連携事例」(2021 年 11 月 7 日・オンライン)

- 松野 思迪, 高岡 隆成, 高田 祥三, 谷水 義隆, 翁嘉華, 高本 仁志, 石畝 学, 小島 史夫, 多田 憲生, 中村 昌弘: 金型生産システムのリソース効率向上を目的としたサイバーフィジカルシステムの構築と実装
- 大森峻一, 吉本一穂: 外食チェーンにおける複数温度帯・複数車種を考慮した在庫配送計画
- 赤坂信悟: ETO 生産における受注方式の設計を通じた産学連携例

2) 事業・市場部門

(部門長: 新目 真紀)

① 概要

製造業を対象に事業・市場を創造・維持するための運用方法を IoT や AI の先端技術を利用して構築することを目的とする。具体的には、科学技術イノベーション(STI)の応用技術研究として、例えば、Society5.0 for SDGs, DX (Digital Transformation), IoT, AI, MR (Mixed Reality), ロボット, メタバース, サイバーセキュリティについて、国内外の最先端事例のケーススタディを行う。成果に基づいて、特に経団連が提唱しているサイバー空間と現実社会の融合による社会全体の最適化を目指す「Society5.0 for SDGs」を進化させた、ニューノーマルな自律協調分散型の『日本版スーパーシティ構想』を未来戦略デザインとする。

② 研究部門活動報告

青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社主催の「未来戦略デザイン推進会議」の研究プロジェクトの一部と連携し、研究を進めた。「未来戦略デザイン推進会議」では製造業(プログラム/プロジェクトマネージャーなど)、コンサルティング(SI, SE)、大学関係者による研究会を月一回程度開催し、国内外での PLM および IoT や AI 技術及びスマート製品やプラットフォーム・サービスについて議論するとともに、調査、開発を行っている。この研究会は日本経営工学会会員外を含み、選定を含めた専門

技術者による非公開(年 1 回の公開フォーラムあり)の研究会である。これらの研究成果は日本経営工学会春季・秋季大会の OS を通して公開した。

(ア) 未来戦略デザイン推進会議の開催(非公開)

(第 1 回) 2021 年 4 月 16 日, (第 2 回) 5 月 21 日, (第 3 回) 6 月 18 日, (第 4 回) 7 月 16 日, (第 5 回) 9 月 24 日, (第 6 回) 10 月 22 日, (第 7 回) 11 月 1 日, (第 8 回) 12 月 2 日, (第 9 回) 2022 年 1 月 28 日, (第 10 回) 3 月 25 日

※すべて 18:30-20:30, オンライン

(イ) 交流会の開催(公開): 中部支部共催

- (第 1 回: 2022 年 2 月 5 日 13:00-15:00)
細井 一雄: 「世界で戦える AI チーム育成と SDGs への挑戦ーハッカソン優勝と社会的課題」, 参加者 20 名
- (第 2 回: 2022 年 2 月 12 日 13:00-15:00)
矢島 彩子: DX 前コンサルティングで求められる人材育成, 参加者 20 名
- (第 3 回: 2022 年 3 月 25 日 18:30-20:30)
三淵 啓自: メタバース市場を担う人材の育成方法, オンライン

(ウ) 経営システム誌 2022 年 7 月号への企画提案

「Society 5.0 for SDGs を推進する未来戦略デザイン人材開発」について企画した。

③ 研究成果 (研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2021 年春季大会・研究部門 OS「未来戦略デザイン Society5.0 for SDGs」(2021 年 5 月 15 日・オンライン)

- 新目 真紀, 合田 美子, 半田 純子, 大門 樹: VR を用いた自動運転車の eHMI が歩行者の安全意識に及ぼす影響
 - 荒川 雅裕, 野末 卓: 未来戦略デザイン・システムプロデューサー育成プログラムの設計ー製品により実現されるサービス創造設計方式の開発ー
 - 玉木 欽也, 佐久田 博司, 新目 真紀, 小野 好之, 中邨 良樹, 高松 朋史: 未来戦略デザイン・システムクリエーター育成プログラムの設計
 - BAO ZHI HUI, 玉木 欽也, 小野 好之, 野口新司, 中邨 良樹: 未来戦略デザイン・システムクリエーター育成プログラムの開発と実証ー全授業実施に対応した期末総合レポートの設計と学生成績評価方法の提案と検証ー
 - ZHENG ZHOUHUA, 玉木 欽也, 新目 真紀, 高松 朋史: 未来戦略デザイン・ビジネスプロデューサー育成プログラムの開発と実証ー全グループワーク演習実施に対応した学生成績評価方法の提案と検証ー
 - QIAN MIJIA, 玉木 欽也, 佐久田 博司, 新目 真紀, 小野 好之, 中邨 良樹, 高松 朋史: 産学連携による SDGs フードロス新生プロジェクトー余剰野菜を活用した SDGs レシピ企画とその有効性の検証ー
- (イ) 第 12 回横幹連合コンファレンス・企画セッション「未来戦略デザイン・プロデューサーの教育プログラム開発」(2021 年 12 月 18 日・オンライン)
- 荒川 雅裕, 朴英元, 阿部 武志, 田崎 一広, 包 智

慧：「未来戦略デザイン・プロデューサー」G3：スマート製品設計とDXー

- 鄭 周華, 新目 真紀, 佐久田 博司, 玉木 欽也：「未来戦略デザイン・プロデューサー」学習 BOM と AI チャットボットのオンライン・グループワーク演習への適用
- 新目 真紀, 玉木 欽也, 秋山 義希：「未来戦略デザイン・プロデューサー」ーG2：ターゲット顧客の態度変容を促すデジタルマーケティングの効果測定ー
- 高松 朋史, 平林 裕治, 鄭 周華, 戴 智豪, 王 雁, 玉木 欽也：「未来戦略デザイン・プロデューサー」G1：社会課題解決と CSV
- 中邨 良樹, 木内 正光, 後藤 智, 友松 恵子, 織田 孝司, 永田 義昭, 玉木 欽也：プラットフォーム開発を目的とした教育プログラムの提案と実施の考察
- 木内正光, 後藤 智, 友松 恵子, 織田 孝司, 中邨 良樹, 永田 義昭, 玉木 欽也：「未来戦略デザイン・プロデューサー」G0：バックキャストによる事業コンセプト企画の構想

(ウ) 日本経営工学会 2021 年秋季大会・研究部門 OS
「未来戦略デザイン Society5.0 for SDGs」(2021 年 11 月 6 日・オンライン)

- 玉木 欽也, 高松 朋史, 新目 真紀, 荒川 雅裕, 朴 英元, 中邨 良樹, 木内 正光, 鄭周華：社会人教育に向けた未来戦略デザイン・プロデューサー」の全体設計
- 銭米茄, 玉木 欽也：余剰野菜・果物を活用した 6 次化商品企画とその有効性の検証-SDGs 野菜染めグッズ企画かつ販売に関するアンケート・インタビュー調査解析
- 荒川 雅裕, 繁昌 可歩, 朴 英元, 阿部 武志, 玉木 欽也：未来戦略デザイン・システムプロデューサー育成文章類似度による情報検索機能を利用するサービス創出法の開発
- 新目 真紀, 玉木 欽也：未来戦略デザイン・デジタルマーケティング育成プログラムの設計 ターゲット顧客の態度変容を促すデジタルマーケティングの効果測定ー
- 中邨 良樹, 木内 正光, 後藤 智, 友松 恵子, 織田 孝司, 永田 義昭, 玉木 欽也：未来戦略デザイン・プロデューサー プラットフォーム開発を目的とした教育プログラムの提案：未来戦略デザイン・プロデューサーの育成を目指して
- 荒川 雅裕, 朴 英元, 阿部 武志, 田崎 一広, 包智 慧：未来戦略デザイン・システムプロデューサー育成サービス価値創造システムと IoT・DX 設計法の開発

3) サービス部門

① 概要

サービス分野における会員交流促進するため、運営体制の見直しを行う。他部門との統廃合や研究プロジェクトとの連携を検討しつつ、次年度から新たな運用体制で部門活動を開始する準備を行う。

② 研究部門活動報告

既存の研究プロジェクトと連携しながら、サービス部門の中核となる研究テーマや参加メンバについて検討し、継続的な活動を行うための準備を行った。特に、今後は、サービスの授受における人の相互作用をゲーム理論やメカニズムデザインの観点から研究することを部門の重点テーマとして進めることとした。

③ 研究成果(研究発表等)

本年度は、次年度からの運用体制の見直し準備が中心であり、研究活動は実施できなかった。

4) 経営情報部門

(部門長：山下 遥)

① 概要

経営情報分野における研究活動を継続して行う。特に、データ解析コンペティションの中間発表会、成果報告会を開催するとともに、全国大会におけるオーガナイズドセッションを企画する。

② 研究部門活動報告

前年度に引き続き、経営科学系研究部会連合協議会によるデータ解析コンペティションの一部会として参加し、部門主催の形で「データ解析コンペティション JIMA 予選会」を開催した。今年度は、本年度はコネヒト株式会社様より新生児・乳幼児の母親をメインユーザとするポータルサイトのデータが提供された。合計 10 チームが参加して、データ解析の技術と切り口を競った。聴講者も含め、JIMA 内外からの多くの参加があり、中間発表会における情報共有、最終成果発表会での審査を行い、最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を各 1 チーム、学生奨励賞を 2 チームに授与した。上位 2 チームを、3 月 8 日に行われた本選に推薦した。本選では、推薦したチームが最優秀賞と優秀賞を獲得した。

(ア) データ解析コンペティション JIMA 予選会中間発表会(2021 年 11 月 21 日・オンライン)

参加チーム：10 チーム、参加者：48 名

(イ) データ解析コンペティション JIMA 予選会最終発表会(2022 年 2 月 26 日・オンライン)

参加チーム：10 チーム、参加者：57 名

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2021 年春季大会・研究部門 OS
「データ解析コンペティション」(2021 年 5 月 16 日・オンライン)

- 倉又 迪哉, 馬嶋 海斗, 清原 明加, 渡邊 彰久, 岩田 真奈, 近藤 謙将, 中田 和秀：CGA2M+を用いた顧客満足度予測によるコンサルティング支援
- 河合 亜矢子, 白井 康之, 森田 裕之, 後藤 裕介：利用者目的と提供サービスの多様性を考慮したサービス評価に関する研究
- 齊藤 史哲：家電量販店のデジタルマーケティング戦略における潜在顧客の半自動抽出
- 木村 朋弘, 山下 遥：潜在クラスロジットモデルに基づく映画館の飲食売店利用促進に関する研究
- 堀田 真由, 藤生 卓治, 関 庸一：満足度調査からみた商品推奨度の決定要因
- 眞田 智貴, 石垣綾：ビジネスホテルにおける顧客ロイヤルティ向上のための要因分析

5) 経営数理部門

(部門長：皆川 健多郎)

① 概要

近年の複雑化した社会において、対象に応じてより適切なコスト管理が必要とされる。またマーケティングについてもペイジアンネットワーク等の新しい手法による実証研究がなされつつある。このようなより複雑化するシステムに対する管理手法とその効果、考察を深める。

② 研究部門活動報告

経営数理分野における研究活動を継続して行った。特に、経営システム誌における特集の企画・検討を行うとともに、全国大会におけるオーガナイズドセッションを企画した。

③ 研究成果（研究発表等）

(ア) 日本経営工学会 2021 年春季大会・研究部門 OS
「スマート社会の最適化問題」(2021 年 5 月 15 日・オンライン)

- 孫 晶, 高橋 広祐: 再エネの割合と電力需要変動を考慮した電力 SCM の数理統合モデル
- 楠川 恵津子, 阿部 心: 品質と利益・費用分配を考慮したデュアルチャネルをもつクローズド・ループ・サプライチェーンの最適運用と社会評価
- 中西 海斗, 中出 康一: 多品種生産ラインにおける型板入れ替え回数最小化

6) 人間・組織部門

(部門長：村田 康一)

① 概要

人間・組織分野の会員交流促進するための運営体制の見直しを行う。他部門との統廃合や研究プロジェクトとの連携を検討しつつ、次年度から新たな運用体制で部門活動を開始する準備を行う。

② 研究部門活動報告

春季全国大会における一般 OS で発表を行い、年度途中から新しい体制での部門運用を開始した。研究テーマや参加メンバについて検討し、次年度以降の継続的な活動を行うための準備を行った。

(ア) 人間・組織部門ミーティング

(第 1 回) 2021 年 10 月 13 日, (第 2 回) 2022 年 3 月 16 日, オンライン

③ 研究成果（研究発表等）

(ア) 日本経営工学会 2021 年春季大会・一般 OS「コロナ禍でも堅実に育む改革・改善文化」(2021 年 5 月 15 日・オンライン)

- 阪下 絵美: 全員主役を目指す東山塾の継続実践 - プロフェッショナルとしての人間カイホウの場 -
- 関 隆弘: KCS 改善活動で目指すもの
- 宮田 康治: 社員一丸で自由闊達なる改善活動 - 社員一丸で KPI 達成 -

7) 地域活性化データ分析研究プロジェクト

(主査：山下 裕丈)

① 概要

観光立国推進法施行の 2007 年以降インバウンドの

外国人観光客は年々増加し、一昨年度の訪日客数は 3000 万人を突破した。2021 年にはオリンピックが開催され、今後とも訪日外国人客の増加が見込まれる。しかしながら、日本各地の多くの観光地は、その資源の持つポテンシャルを十分に活かした活動ができていないと言いがたい。一方で少子高齢化による人口減少からくる国内市場の縮小は、過疎地だけでなく、各地の周辺市街地の空洞化を加速させている。こうした問題意識から、インバウンドを含む観光の促進、地域活性化に寄与する研究を行う。

② 研究プロジェクト活動報告

研究会をオンラインで 2 回実施した。また、秋季大会における研究プロジェクト OS2 件にて、成果発表した。

(ア) 第 1 回研究会

日時：2021 年 7 月 31 日 13:00~16:00

場所：オンライン開催

- 油井 毅: 地方大学発学生ベンチャーの挑戦
- 福岡大平: ジビエ振興から目指す地域活性化への挑戦

(イ) 第 2 回研究会

日時：2022 年 1 月 29 日 (土) 13:00~17:00

場所：オンライン開催

- 清水貴康, 平山朝美: 地域全体を「巻き込んだ」まちづくり - 地元イベントを通して行う移住定住促進 -
- 鈴木孔明: これからの時代のひとりコングロマリットという生き方
- 石井康夫: 冷凍食品の利用タイミングを予測するためのアプローチ手法について

③ 研究成果（研究発表等）

(ア) 日本経営工学会 2021 年秋季大会・研究プロジェクト OS「観光・地域活性化データ分析研究プロジェクト」(2021 年 11 月 6 日・オンライン)

- 油井 毅: シードステージベンチャー企業のピボット
- 渡邊 友啓: WEB マーケティングを活用し売り上げを上げる手法 4 選
- 福岡 大平: 石川県におけるジビエを用いた地域活性化に向けた試み
- 竹安 数博: Simplified Machine Diagnosis Techniques of Absolute Deterioration Factor By Using AR Model With Weight
- 石井 康夫, 竹安 宏匡, 油井 毅, 竹安数博: 順序ロジスティック回帰分析を用いた消費者の冷凍食品に対する評価に関する一考察
- 鈴木 孔明, 石井 康夫, 竹安 数博: 若者の冷凍食品に関する利用実態と評価構造に関する研究

8) 集合知メカニズムデザインの研究

(主査：水山 元)

① 概要

「集合知メカニズム」とは、複数人に分散している知識を集約して集合知を形成する仕組みを捉えるためのフレームワークである。これは、直接アクセスすることが困難な、人々の頭の中にある知識をうまく引

き出すための、知識提供者とシステム間のインタラクション、そのインタラクションを適切に機能させるためのインタフェースやインセンティブなどによって規定される。本研究会は、この集合知メカニズムについての理論的な研究と、それを実際に社会で活用していくための実践的な研究を協働的に進めていくための場としたい。

② 研究プロジェクト活動報告

研究会を 16 回実施し、「ベイジアン自白剤の信頼性・証明」「集合知メカニズムのモデル化・応用」「Design for Sustainability Servitization and PSS」「サイエンスアゴラ出展企画」「経営工学会全国大会 OS の振り返り」について議論した。通常の研究会は、一回につき 3～4 時間程度のオンラインで実施され、6 名から 13 名の参加があった。また、第 11 回ではサイエンスアゴラ企画、第 13 回では集合知メカニズムに関する研究発表会、第 14 回ではセミナーを実施した。

(ア) 研究会の実施

(第 1 回) 2021 年 4 月 1 日, (第 2 回) 5 月 17 日,
(第 3 回) 6 月 4 日, (第 4 回) 6 月 18 日, (第 5 回) 7 月 23 日, (第 6 回) 8 月 13 日, (第 7 回) 9 月 10 日, (第 8 回) 9 月 24 日, (第 9 回) 10 月 15 日,
(第 10 回) 10 月 29 日, (第 12 回) 11 月 25 日, (第 15 回) 2022 年 1 月 14 日, (第 16 回) 2 月 7 日

(イ) 第 11 回: サイエンスアゴラ企画「社会に役立つ集合知メカニズム」

日時: 2021 年 11 月 7 日, 15:00～18:00
会場: オンライン開催
参加者: 50 名

(ウ) 第 13 回: 集合知メカニズムに関する研究発表会

日時: 2021 年 12 月 5 日, 13:00～18:30
会場: 早稲田大学早稲田キャンパス
参加者: 20 名

内容: 「Posted price & bargaining in markets with asymmetric information」, 「社会実装のためのメカニズムデザイン」, 「計算科学と行動科学の相互補完による生産システムへのアプローチ」, 「クラウドマニュファクチャリング環境下におけるスケジューリングオークションの適用」, 「新しいサービス工学の確立を目指して」, 「Space Booking in Restaurant Reservation System with VCG mechanism under COVID-19 Impact」

(エ) 第 14 回: セミナー

日時: 2021 年 12 月 10 日, 18:30～20:30
会場: オンライン開催
参加者: 10 名

内容: 「Failure of Exploratory Growth: An Analysis of Airlines' Write-Offs Recently- Purchased Airplanes」
(講師: 三橋平教授)

③ 研究成果(研究発表等)

(ア) 日本経営工学会 2021 年春季大会・研究プロジェクト OS「集合知メカニズムデザインの研究」, 一般 OS 「集合知メカニズムとその応用」
(2021 年 5 月 16 日・オンライン)

- 石川 竜一郎: 推奨意向の信頼性

- 唐澤 英安, 唐澤 英長: イノベーションプロジェクトのための”ソフトウェア・マッチング”緒論～知識共創型イベントにおける連環データ分析によるガイドマップのトライアル～
- 水山 元: 集合知メカニズムのモデル化についての一考察
- 渡邊 るりこ, 藤井 信忠, 國領 大介, 貝原 俊也, 崎山 誠: アイデアソンを対象としたテキストマイニングによるグループディスカッションの定量的評価手法
- 杉之内 将大, 藤田 瞬, 水山 元: スケジューリングオークションを用いた企画ライブの演者構成決定と利益配分に関する研究
- 伊藤 大晟, 木見田 康治, 西野 成昭: CtoC サービスにおける製品循環を実現するマッチングメカニズムの提案

9) SCM 意思決定の体系化と教育プログラム構築に関する研究プロジェクト

(主査: 松本 卓夫)

① 概要

本研究プロジェクトでは, SCM の各プロセスに関する基礎的事項, 及び複数プロセス間での関係性について整理し, 調達から販売までの SCM 意思決定の体系化を行う。さらに, 各プロセスにおける意思決定と財務指標との関係性等も考慮し, システム全体の評価アプローチに関する提案を行う。また, 需要変動等の不確実性の影響を含めた実システムを想定して, SCM に関する教育プログラムの提案も目指す。

② 研究プロジェクト活動報告

新型コロナウイルス感染症が収束しないため, 活動を中止した。

③ 研究プロジェクト活動成果

活動中止のため無し。

[V] 内外の関連機関との連携及び交流(定款第 4 条第 5 号)活動報告

(1) 国際会議及び協賛学会情報の提供

国内外での開催会議 28 件の協賛承認を行い, 「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載した。なお, 28 件中 FMES 協賛覚書準拠の案件が 15 件, 国際会議が 4 件であった。

(2) IFPR (ICPR) および IFPR-APR との連携

ICPR Americas 2022 の HP 掲載

(3) APIEMS との連携

1) 2021 APIEMS の 2022 へ延期, 及び 2021 webinar 開催案内の HP 更新

(4) 経営工学関連学会協議会 (FMES) 及び日本技術者認定機構 (JABEE) への協力

JIMA 会員の JABEE 審査員資格の調査を行い, 名簿を更新した。

(5) 横幹連合, 日本工学教育協会, 経営関連学会協議会との連携支援

上記 3 団体に対し, JIMA の会員継続手続きを行い各団体の最新情報を専用ホームページで提供した。

また、日本工学教育協会連合講演会の実行委員に
細田順子（日立製作所），経営関連学会協議会理事に
開沼泰隆（東京都立大学），監事に降旗徹馬（高千穂
大学），横幹連合次期理事に皆川健多郎（大阪工業大
学）に参画頂いた（敬称略）。

[VI] その他前条の目的を達成するに必要な事業

（定款第4条第6号）

特になし

6. 1. 2 処務の概要

〔Ⅰ〕 役員等に関する事項

2022 年 3 月末現在

職 名	常非別	氏 名	就任（重任）年月日	担当職務	報酬	現 職	備考
会 長	非常勤	大野 高裕	2021 年 6 月 3 日	業務の総括	無	早稲田大学	
副会長	〃	辛島 光彦	〃	大会	〃	東海大学	
副会長	〃	藤野 直明	〃	産学官連携	〃	株式会社 野村総合研究所	
理 事	〃	石垣 綾	〃	経営システム誌編集、表彰	〃	東京理科大学	
理 事	〃	翁 嘉華	〃	国際・渉外	〃	神奈川大学	
理 事	〃	倉田 久	〃	論文誌編集	〃	横浜国立大学	
理 事	〃	鈴木 秀男	〃	会員	〃	慶応義塾大学	
理 事	〃	中川 慶一郎	〃	企画・行事	〃	NTT データ先端技術株式会社	
理 事	〃	蓮池 隆	〃	庶務	〃	早稲田大学	
理 事	〃	堀川 三好	〃	研究	〃	岩手県立大学	
理 事	〃	皆川 健多郎	〃	財務、人材育成	〃	大阪工業大学	
理 事	〃	宗澤 良臣	〃	支部	〃	広島工業大学	
監 事	〃	開沼 泰隆	〃	監事	〃	東京都立大学	
監 事	〃	西岡 久充	〃	監事	〃	龍谷大学	

〔Ⅱ〕 職員に関する事項

2022 年 3 月末現在

なし

2021 年度社員（会員）異動状況報告書
(2022 年 3 月 31 日現在)

2022 年 3 月末社員数 30
2021 年 3 月末社員数 33
増減数 3

支部	正会員	正会員 (賛助代表)	学生会員	賛助会員	名誉会員	支部計
東北・北海道	31	0	10	0	0	41
関東	538	8	105	11	15	677
中部	81	0	8	1	4	94
北陸	28	1	3	1	0	33
関西	132	0	7	2	5	146
中国四国	61	1	5	1	2	70
九州	35	0	1	0	0	36
海外	2	0	1	0	0	3
合計	908	10	140	16社/18口	26	1,100
前年度末	927	11	109	19社/21口	27	1,093
増減	-19	-1	31	3社/3口	-1	7

〔Ⅲ〕会議等に関する事項

（１）理事会

１）第36期第1回理事会

開催日：2021年6月21日（月）18:00-20:10

場 所：Web 会議

議決事項：

- ① 代表理事選出の件
- ② 理事の会務担当の件
- ③ 常設委員会委員の委嘱の件
- ④ 研究部門長の委嘱の件
- ⑤ 入会の件
- ⑥ 公印取扱細則の件

以上6件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2022年春季大会の開催について
 - ② 庶務業務の効率化に伴うグループウェアの利用について
 - ③ 理事会議案書作成について
 - ④ BPA オンライン審査実施要領について
 - ⑤ 著作権規則について
 - ⑥ 著作物の追加委託と契約書の切替に関して
 - ⑦ 2021年度春季大会 BPA 受賞者について
- 以上7件について協議した。報告事項は5件である。

２）第36期第2回理事会

開催日：2021年9月25日（土）9:00-11:20

場 所：Web 会議

議決事項：

- ① 入会の件
- 以上1件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① BPA の審査について
 - ② 企画行事委員会の検討状況について
- 以上2件について協議した。報告事項は8件である。

３）第36期第3回理事会

開催日：2021年12月21日（火）18:00-20:32

場 所：Web 会議

議決事項：

- ① 入会および資格復活の件
 - ② 2021 年秋大会 BPA の審査について
 - ③ 2022 年度学会業務委託契約書について
 - ④ 次回(第4回)理事会の開催日時の件
- 以上4件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2022 年秋季大会の開催について
 - ② 2022 年度予算案について
 - ③ 2022 年度事業計画について
 - ④ 産学官連携委員会についての基本的な考え方
 - ⑤ 大会規則について
- 以上5件について協議した。報告事項は7件である。

４）第36期第4回理事会

開催日：2022年3月5日（土）13:30-15:52

場 所：Web 会議

議決事項：

- ① 2022 年度予算案について
 - ② 2021 年度表彰者の審査結果について
 - ③ 表彰規則改訂について
 - ④ 論文賞・論文奨励賞の推薦方法について
 - ⑤ BPA の審査方法について
 - ⑥ 総会の開催日時の件
 - ⑦ Zoom アカウント購入の件
 - ⑧ 入会の件
 - ⑨ 名誉会員推薦候補者の件
- 以上9件について全会一致で承認した。

協議事項：

- ① 2022 年春季大会のパネルディスカッション・特別講演の一般公開と神奈川大学後援について
 - ② Zoom アカウントの管理・運営方法に関して
- 以上2件について協議した。報告事項は5件である。

（２）理事会みなし決議

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条「理事会の決議の省略」に基づき、以下のみなし決議を行なった。

１）常設委員会委員の委嘱の件

開催日：2021年8月23日（月）～8月27日（金）

提案に対し、2021年8月27日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこととの意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

２）研究部門長の委嘱の件

開催日：2021年8月23日（月）～8月27日（金）

提案に対し、2021年8月27日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこととの意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

３）入会の件

開催日：2021年8月23日（月）～8月27日（金）

提案に対し、2021年8月27日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこととの意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

４）入会の件

開催日：2022年2月7日（月）～2月12日（土）

提案に対し、2022年2月12日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこととの意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

５）人材育成委員会委員（常設委員会委員）の委嘱について

開催日：2022年2月7日（月）～2月12日（土）

提案に対し、2022 年 2 月 12 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

6) 2022 年度事業計画の件

開催日：2022 年 3 月 15 日（火）～3 月 24 日（木）

提案に対し、2022 年 3 月 24 日、理事の全員からの同意及び監事の異見表明がないこと意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(3) 総会

2021 年度定時総会

開催日：2021 年 5 月 14 日（金）～6 月 3 日（木）

提案に対し、2021 年 6 月 3 日、社員の全員からの同意の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 58 条第 1 項に基づき、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなされた。

報告事項：

1. 1 2020 年度事業報告、学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告
1. 2 監査報告
1. 3 2021 年度事業計画、収支予算報告
1. 4 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

審議事項：

- 第一号議案 2020 年度事業報告及び収支決算報告の件
第二号議案 役員及び代議員選挙規則改定の件
第三号議案 名誉会員推戴の件
第四号議案 新役員選任の件

(4) 各種委員会

1) 庶務委員会

理 事：蓮池 隆

委員長：佐藤 哲也

委 員：佐藤 公俊、佐藤 哲也、北條 仁志、三川 健太

① 活動報告

- (ア) 第 36 期理事会の運営や資料作成、議事録作成などを行った。
- (イ) メールマガジン（毎月 1 日、15 日発行）の掲載依頼内容及び事務局が作成した記事内容を確認するとともに、事務局への配信依頼を行った。
- (ウ) 各種委員会や研究部門・研究プロジェクト、あるいは公募情報などのホームページ掲載依頼を集約し、事務局へ更新を依頼するとともに、依頼者への更新結果の連絡なども行った。
- (エ) 業務委託内容を精査し、事務局に依存しない学会運営を検討するとともに、無駄の削減を行い、次年度の国際文献社との契約や予算案に反映させた。
- (オ) 事業計画書及び事業報告書の取りまとめや確

認を行った。

② 委員会の開催

(ア) 第 36 期第 1 回委員会

開催日：2021 年 7 月 6 日（火）19:00-19:30

場 所：Web 会議

議 題：

A) 第 36 期庶務委員会の役割について

B) 庶務委員の役割分担について

出席者：蓮池 隆、佐藤 公俊、佐藤 哲也、北條 仁志、三川 健太（5 名）

2) 研究委員会

理 事：堀川 三好

委員長：後藤 祐介

委 員：佐藤 公俊、新目 真紀、山下遥、孫 晶

① 活動報告

研究部門および研究プロジェクトの運営が円滑に行えるように情報提供等の支援を行った。また、今後行う予定であるオンライン研究会・セミナーについて企画立案や調整を行った。

② 委員会の開催

(ア) 第 1 回 研究委員会

開催日：2021 年 12 月 16 日 12:10-12:50

場所：オンライン会議

議題：オンライン研究会・セミナーについて

拡大委員会として部門長および研究委員が参加

(イ) 第 2 回 研究委員会

開催日：2022 年 3 月 28 日 10:00-11:00

場所：オンライン会議

議題：今後のオンライン活用について

拡大委員会として支部委員会、研究委員会、研究部門長が参加

(ウ) その他

随時メールベースで審議を実施。

3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

理 事：西岡 久充（～2021 年 6 月 6 日）

倉田 久（2021 年 6 月 6 日～）

委員長：椎名 孝之

副委員長：秋葉 知昭、鈴木 定省、片山 直登

委 員：阿部 圭司、翁 嘉華、鬼頭 朋見、

高野倉 雅人、滝 聖子、武市 祥司、田中 正敏、中出 康一、中山 景央、成島 康史、朴 元熙、細田 高道、村田 康一、

① 日本経営工学会論文誌（Journal of Japan Industrial Management Association）和文号 Vol.72, No.1～No.4, 英文号 2E, 4E を発行した。

②2020 年度の第 35 期論文誌編集委員会活動を継続し、2021 年度の第 36 期論文誌編集委員会を以下のように開催し、論文の査読状況を確認するとともに、編集方針等の各議題について協議した。

(ア) 第 1 回 委員会

開催日：2021 年 6 月 11 日（金）18:00-19:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

A) 新体制のご挨拶

- B) 編集業務の報告・確認
- C) 理事懇談会報告
- D) 編集部レベルでの論文却下の明文化
- E) その他

(イ) 第2回 委員会

開催日：2021年8月6日(金) 18:00～19:00

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) 理事懇談会報告
- B) 編集部レベルでの論文却下の明文化
- C) その他

(ウ) 第3回 委員会

開催日：2021年10月1日(金) 18:00～19:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) 理事会からの報告
- C) 査読表彰制度の認定条件について
- D) その他

(エ) 第4回 委員会

開催日：2021年12月10日(金) 18:00～18:50

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) 理事会からの報告
- C) 法相委員会からの依頼について
- D) その他

(オ) 第5回 委員会

開催日：2022年2月18日(金) 18:00～19:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 編集業務の報告・確認
- B) 理事会からの報告
- C) 予算及び事業報告の確認
- D) その他

- ③ 投稿論文に対するエリアエディタの差配や査読結果等については、Editorial Manager 上でその都度対応した。

4) 企画行事委員会

理 事：中川 慶一郎

委員長：西村 泰一

委 員：金子 雅明、田中 岳、田畑 智章

会員並びに非会員を対象に経営工学の専門分野並びに関連分野の諸問題について交流・教育のための各種の行事に関する検討を実施した。

① 会合の開催

今年度は体制及び行事内容を一新すべく、アカデミアと実務の橋渡しという観点から、以下のとおり委員会にて新しい行事について検討を実施した。

(ア) 第1回会合（オンライン会議）

開催日：2021年9月6日(月) 18:00～19:00

議 題：課題の共有、当面の方向性

出席者：中川、西村、金子、田中、田畑（5名）

(イ) 第2回会合（オンライン会議）

開催日：2021年9月21日(火) 18:00～19:00

議 題：活動方針の確認、学会活動の活性化、検討
タスク

出席者：中川、西村、金子、田中、田畑（5名）

(ウ) 第3回会合（オンライン会議）

開催日：2021年10月21日(木) 18:00～19:00

議 題：Webiner開催方法、「経営工学ビジョン」
を語るセミナー、行事案

出席者：中川、西村、金子、田中、田畑（5名）

(エ) 第4回会合（オンライン会議）

開催日：2021年11月4日(木) 17:30～18:30

議 題：企画案報告

出席者：中川、西村、金子、田中、田畑（5名）

(オ) 第5回会合（オンライン会議）

開催日：2021年11月30日(火) 17:30～18:30

議 題：次年度予算案

出席者：中川、金子、田中（3名）

5) 人材育成委員会

理 事：皆川 健多郎

委員長：箕 宗徳

委 員：玉木 欽也

① 「技術士を目指そう」説明会 オンライン

経営工学3 団体連携事業による説明会を開催

開催日：2021年12月18日(土) 13:30-16:00

場 所：オンライン

参加者：24 名

内 容：

(ア) 技術士について

(イ) 技術士資格取得のメリット（体験談）

(ウ) 学会 CPD と資格挑戦への支援

(エ) 試験内容と受験準備のポイント

(オ) 専門グループ別相談・アドバイス

② 日本技術士会経営工学部会講演会

経営工学3 団体連携による講演会を開催

(ア) 期 日：2022年2月19日(土)

13 時 15 分～17 時 00 分

(イ) 場所：Teams によるオンライン Web 開催

(ウ) テーマ：「経営工学の活用してさらなる飛躍—モノづくり（生産）について考えてみよう—」

(エ) 講演内容

講演 1：日本技術士会経営工学部門

「生産マネジメントにおける品質保証体系について～クレーム事例・監査から得られた品質改善～」

講師：久保田毅氏（技術士（経営工学、化学、総合技術監理））

講演 2：日本経営工学会

「工場における作業行動の見える化の課題と活用方法の検討」

講師：岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授
堀川三好氏

講演 3：日本 IE 協会

「これからの IEr にもとめられるもの～日本 IE 協

会における IE 人材育成のとりくみ～」
講師：産業能率大学情報マネジメント学部教授
斎藤文氏

(オ) 参加者：日本経営工学会、日本 IE 協会、日本技術士会各会員、他 (80 名)

(カ) 参加費：1,000 円

6) 会員委員会

理 事：鈴木 秀男

委員長：山下 遙

委 員：八木 英一郎、岩本 大輝

① 委員会の開催

(ア) 第 1 回会員委員会

開催日：2022 年 4 月 7 日 (木)

～4 月 8 日 (金)

場 所：メール審議

議 題：

A) 2021 年度の活動報告

② 定期の委員会審議/情報交換

開催日：随時

場 所：メールによる審議/情報交換

活動内容：

A) 入退会申請の確認、事務局への問い合わせ

B) 名誉会員候補者の確認、理事会への審議提案

C) 会費未納会員に関する確認、督促の指示

③ 会員情報原本管理

A) セキュリティ上の管理

B) 会員情報の整合性管理

7) 財務委員会

理 事：皆川 健多郎

委員長：田畑 智章

委 員：阿部 圭司、平井 裕久

① 第 1 回委員会

開催日：2021 年 6 月 25 日 (金)

場 所：オンライン審議

議 題：

(ア) 委員長の選出

(イ) 取り組みに関する意見交換

② 第 2 回委員会

開催日：2022 年 2 月 22 日 (火)

場 所：メール審議

議 題：

(ア) 2022 年度予算案の検討

8) 表彰委員会

理 事：石垣 綾

委員長：竹本 康彦

委 員：倉田 久、川村 大伸、宗澤 良臣、
鈴木 秀男、山下 遙、八木 英一郎

① 委員会開催報告

(ア) 第 35 期委員会

開催日：2021 年 5 月 16 日 (日)

場 所：Zoom によるオンライン開催

議 題：

A) 春季大会での BPA の選考

(イ) 第 36 期第 1 回委員会

開催日：2021 年 10 月 11 日 (月)

場 所：Zoom によるオンライン開催

議 題：

A) 秋季大会の BPA 実施の検討

B) 表彰全体の検討及び特別賞細則の改訂

(ウ) 第 36 期第 2 回委員会

開催日：2021 年 11 月 7 日 (日)

場 所：Zoom によるオンライン開催

議 題：

A) 秋季大会での BPA の選考

B) 表彰全体の検討及び特別賞細則の改訂

(エ) 第 36 期第 3 回委員会

開催日：2021 年 12 月 20 日 (月)

場 所：Zoom によるオンライン開催

議 題：

A) 学会賞・実践賞候補者及び論文賞・
奨励賞対象論文の確認

(オ) 第 36 期第 4 回委員会

開催日：2022 年 2 月 22 日 (火)

場 所：Zoom によるオンライン開催

議 題：

A) 学会賞・実践賞候補者及び論文賞・奨励賞
対象論文の最終決定

9) 大会委員会

理 事：辛島 光彦

委員長：木内 正光

委 員：楠川 恵津子、加藤 麻樹、小林 稔、
嶋崎 真仁、田畑 智章、長沢 敬祐、
西口 宏美、八木 英一郎

① 研究発表大会

(ア) 春季大会

日時：2021 年 5 月 15 日 (土) ～16 (日)

場所：オンライン開催 (早稲田大学)

大会組織委員長：大野 高裕

(イ) 秋季大会

日時：2021 年 11 月 6 日 (土) ～7 日 (日)

場所：オンライン開催 (近畿大学)

大会組織委員長：古殿 幸雄

テーマ：「ニューノーマル時代における経営工学
の挑戦」

② 委員会開催報告

(ア) 第 1 回

開催日：2021 年 8 月 31 日 (火)

場 所：オンライン (Zoom)

議 題：

A) 委員及び委員長紹介

B) 第 36 期大会委員会重要項目について

C) 2021 年秋季大会、2022 年春季大会について

D) 2021 年春季大会 (70 周年記念大会) について

E) 今後の開催校の選定、依頼について

F) 協賛・協力学会等学生会員、協賛学会等法人
会員の参加費について

G) 大会規則・細則の見直しについて

H) 2021 年秋季大会プログラム編成会議について
出席者：8 名

(イ) その他

メール会議にて都度開催

- A) 2021 年春季大会プログラム編成について
- B) 2021 年春季大会決算報告
- C) 2021 年秋季大会プログラム編成について
- D) 2021 年春季大会決算報告
- E) 2022 年春季大会について
- F) 2022 年秋季大会について
- G) 2022 年事業計画と予算案について
- E) 2021 年事業報告について

1 0) 国際・渉外委員会

理 事：翁 嘉華

委員長：大森 峻一

副委員長：松野 思迪

委 員：孫 晶，赤木 宏匡，降旗 徹馬，中山 景央，長
沢 敬祐，細田 順子，挾間 雅義，蔵本 薫

① 委員会

(ア) 第 36 期第 1 回 委員会

開催日：2021 年 5 月 16 日（日）12:00-13:30

場 所：ZOOM オンライン会議

議 題：

- A) 前期の引継ぎ事項の確認
- B) 各委員の分担の確認
- C) その他

出席者：12 名

(イ) 第 36 期第 2 回 委員会

開催日：2021 年 11 月 9 日（火）

場 所：メール審議

議 題：

- A) 日本 IE 協会との連携について
- B) 経営システム誌への執筆者推薦
- C) その他

出席者：8 名

② 2021 年度の主な活動結果

(ア) APIEMS との連携

- A) APIEMS の開催の HP 更新
- B) 2021 年 APIEMS 開催延期の HP 掲載

(イ) IFPR (ICPR) および IFPR-APR との連携

③ 国際会議の情報提供

JIMA 会員の関心のあると思われる研究領域の国際会議の開催情報を「国際会議のご案内」のページに 9 件掲載した。このページは毎月の更新、見直しをしている。また、メルマガには隔号で直近 3 カ月に締め切りを迎える会議を掲載している。

④ 横幹連合，日本工学教育協会，経営関連学会協議会との連携支援

上記 3 団体に対し，JIMA の会員継続手続きを行った。また，これらの団体の情報を JIMA 会員に専用ホームページで最新情報を提供した。

経営関連学会協議会評議員に，降旗徹馬先生（高千穂大学）に JIMA の立場でご参画いただいた。

また，横幹連合に，皆川健多郎先生を（大阪工業大

学）を推薦し，2022 年 4 月から理事に就任することとなった。

⑤ 他学協会との共催，協賛事業の支援

国内外での開催会議 28 件の協賛承認を行い，「共催・協賛・関連行事のご案内」のページおよびメルマガに掲載した。なお，28 件中 FMES 協賛覚書準拠の案件が 15 件，国際会議が 4 件であった。

⑥ 日本 IE 協会との連携

前期の委員会で提案にあった「JIIIE 相互研究会」が，翁理事・大森委員長の担当で開始した。当初は JIIIE と JIMA の連携企画と考えていたが，JIIIE 側の希望により，両団体の全体的な連携方針が整理されるまでは，正式な連携活動は行わないことになった。そのため，JIIIE 相互研究会は，翁理事・大森委員長個人としての取組となった。全体の連携方針は，大野会長・藤野副会長と JIIIE の間で議論している。

1 1) 経営システム誌編集委員会

理 事：石垣 綾

委員長：川村 大伸

副委員長：高野倉 雅人

委 員：滝 聖子，広谷 大助，孫 晶

① 発行状況

「経営システム」誌（Communications of JIMA），Vol.31, No.1・No.2 を冊子体と電子媒体の両方にて発行した。

（発行年月 巻-号 発行部数）

（ア）2021 年 7 月 15 日，31-1，1,800 部

（イ）2022 年 1 月 15 日，31-2，1,800 部

② 委員会開催報告

(ア) 第 36 期第 1 回委員会

開催日：2021 年 7 月 20 日（火）

場 所：Teams によるオンライン開催

議 題：

A) 初回顔合わせ及び今後の進め方の確認

(イ) 第 36 期第 2 回委員会

開催日：2021 年 8 月 4 日（水）

場 所：Teams によるオンライン開催

議 題：

A) 経営システム Vol.31, No.2 の件

(ウ) 第 36 期第 3 回委員会

開催日：2021 年 9 月 27 日（月）

場 所：Teams によるオンライン開催

議 題：

A) 経営システム Vol.31, No.2 の件

(エ) 第 36 期第 4 回委員会

開催日：2021 年 10 月 23 日（土）

場 所：Teams によるオンライン開催

議 題：

A) 経営システム Vol.31, No.2 の件

(オ) 第 36 期第 5 回委員会

開催日：2021 年 11 月 30 日（火）

場 所：Teams によるオンライン開催

議 題：

A) 経営工学実践賞受賞候補者の検討

(カ) 第 36 期第 6 回委員会

開催日：2022年3月3日（木）
場 所：Teams によるオンライン開催
議 題：
A) 経営システム Vol.32, No.1 の件

1 2) 支部委員会

理 事：宗澤 良臣
委員長：宗澤 良臣
委 員：各支部支部長，事務局長

① 委員会の開催

(ア) 第1回支部委員会（拡大委員会として実施）

開催日：2022年3月28日（月）

場 所：オンライン形式

議 題：

- A) 広報関連 TF 検討報告
- B) オンライン研究会・セミナー企画案
- C) その他

② 支部委員との Mail による報告・意見交換

- A) 2021 年度事業報告と 2022 年度予算
- B) Zoom アカウントの利用状況
- C) 2021 年度事業報告

1 3) 産官学連携委員会

理 事：藤野 直明
委員長：藤野 直明
委 員：松尾 博文，増田 靖

産官学連携の場において、経営工学や関連領域の「学」の重要性をアピールする活動を行った。領域は物流業、製造業、小売流通業を対象として行った。また、インダストリアルエンジニアリング協会機関紙他、金融業界関係者への DX や経営工学の紹介を行うため、日本証券アナリスト協会機関紙などへの寄稿を行った。

A) 物流業関係

- ・本年度 6 月に閣議決定された政府の「総合物流施策大綱」検討会に参画し、大綱の文書に明示的に「経営工学」を記載していただいた。

(引用)各階層への学習機会の提供『DX 推進にあたって、従来の学問分野に加え、経営情報学や経営工学、数理科学などの多様な能力を備えた人材が物流分野に参画し、物流改革が促進されるよう、産官学が連携した高等教育段階における高度物流人材育成の取組を推進する。また、サプライチェーン上の荷主・物流事業者等の従事者に対して、これらの高度な知識、技能や、経営戦略としての物流やサプライチェーンマネジメント、オペレーションマネジメントを学ぶ機会を提供する。これらの取組を促進するため、消費者を含む幅広い関係者に向けて、物流課題やそれを解決するために求められる物流人材の姿について積極的な発信に取り組む。』

(<https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/content/001409564.pdf>)

・上記に関連して国土交通省、経済産業省、日本物流団体連合会が共催で開催した「高度物流人材シンポジウム ～新時代のロジスティクスと、いま求められる人材像～」(4/27)に講師として登壇「ビジネス

スクールで教える物流」について講演を行った。

B) 製造産業関係

- ・「HANNOVER MESSE 2021 Digital Edition」(ハノーバーメッセ:4/15)での日独会議パネルディスカッション「インダストリー4.0 と AI: 日本とドイツの中小企業の課題」に登壇。DX に対する中小企業支援はドイツが先行しているため、日本でも大学と連携した民間支援機能を充実させるべきとの指摘を行った。
- ・ロボット革命・産業 IOT イニシアティブ協議会国際シンポジウム(10/28)のパネルのコ・コーディネータ役を担う。

パネリストは大宮元三菱重工会長、ヤマト G 総研 木川理事、オークマ花木相談役。「スマートマニュファクチャリングを目指し、製造業の人材開発カリキュラムを抜本的に見直し再構築を図る方向で米国とドイツが連携して動きはじめたことを紹介。データ連携と併せ、日本でも同様に取り組むべきとの主張を行った。」

(<https://www.youtube.com/watch?v=1vC8eohhR7A&t=11s>)

・一般財団法人エンジニアリング協会 次世代スマート工場のエンジニアリング研究会事例調査分科会の座長として活動。経済産業省予算で行われた MES 調査や当該分科会が主催する MES シンポジウム(2021 年 10 月)の支援を行い、社会人向けの人材育成カリキュラム開発支援を行った。

・日本生産性本部の下記イベントに講師として登壇した。

① モーニングフォーラム(8/26)

「DXの本質と日本企業の課題」

② 日本アカデミア官民交流・政策研究会

「DXの本質と政策課題、組織戦略、人材戦略」

③ 生産革新マネジメントコース&組織変革とリーダーシップコース(1/6)

「DXの本質と展開」

④ 全国労働組合生産性会議(全労生)・第3回幹事会(9/24)

「DX, インダストリー4.0, ソサエティ5.0」

C) 小売流通業関係

- ・日本小売業協会 CIO 研究会ステアリングコミティのコーディネータを務めた。
- ・日本小売業協会が来年度 5 月から実施される「流通・小売業 CIO アカデミー」のカリキュラム開発に、主に SCM や IT 万ジメントの分野から支援を行った。

(https://japan-retail.or.jp/jra_activities/22_05_14/)

・ペガサスクラブ(小売業経営者クラブ)で講演「小売業の DX と経営課題」

D) 各種業界団体機関紙への寄稿

- ・日本証券アナリスト協会機関紙証券アナリストジャーナル(2022.FEB)「海外での DX の進展」
- ・日本インダストリアル・エンジニアリング協会機関紙 I E レビュー(2022.Vol63.No.1)「IEの可能性と IEr への期待」

(5) 許可，認可，承認，証明等に関する事項

該当事項なし。

(6) 契約に関する事項

一般財団法人学会誌刊行センターと「日本経営工学会論文誌」および「経営システム」編集発行業務について2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の代行委託契約を締結した。

株式会社国際文献社と学会事務局の会員業務，会計業務，理事会運営業務，その他発生する業務について2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）の代行委託契約を締結した。

(7) 寄付金に関する事項

該当事項なし。

(8) 主務官庁からの連絡事項

- 2021年4月1日「事業報告等の提出」提出のご案内（A）
- 2021年5月1日「事業報告等の提出」提出のご案内（B）

- 2021年6月1日「事業報告等の提出」提出のご案内（C）

(9) その他重要事項

該当事項なし。

(10) 附属明細書

該当事項なし。

6. 1. 3 収支決算報告

[I] 財務諸表

貸借対照表

正味財産増減計算書

予算対比正味財産増減計算書

正味財産増減計算書内訳表

財産目録

財務諸表に対する注記

附属明細書

貸借対照表

令和 4年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	14,892,733	11,784,478	3,108,255
未収金	0	80,000	△ 80,000
流動資産合計	14,892,733	11,864,478	3,028,255
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
公益目的事業運営資産	22,000,000	22,000,000	0
創立70周年記念事業準備金	0	1,625,780	△ 1,625,780
創立80周年記念事業準備金	1,000,000	0	1,000,000
選挙積立金	600,000	300,000	300,000
特定資産合計	23,600,000	23,925,780	△ 325,780
固定資産合計	23,600,000	23,925,780	△ 325,780
資産合計	38,492,733	35,790,258	2,702,475
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	704,465	1,310,666	△ 606,201
前受金	242,000	468,000	△ 226,000
前受会費	136,000	233,000	△ 97,000
預り金	0	947	△ 947
流動負債合計	1,082,465	2,012,613	△ 930,148
負債合計	1,082,465	2,012,613	△ 930,148
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	37,410,268	33,777,645	3,632,623
(うち特定資産への充当額)	(23,600,000)	(23,925,780)	(△ 325,780)
正味財産合計	37,410,268	33,777,645	3,632,623
負債及び正味財産合計	38,492,733	35,790,258	2,702,475

正味財産増減計算書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	439	1,798	△ 1,359
特定資産受取利息	439	1,798	△ 1,359
正会員受取入会金	90,000	66,000	24,000
学生会員受取入会金	66,000	21,000	45,000
正会員受取会費	8,837,000	8,991,000	△ 154,000
当年度	8,481,000	8,591,000	△ 110,000
過年度	356,000	400,000	△ 44,000
学生会員受取会費	384,000	243,000	141,000
当年度	368,000	216,000	152,000
過年度	16,000	27,000	△ 11,000
賛助会員受取会費	800,000	900,000	△ 100,000
事業収益	7,172,830	4,390,424	2,782,406
春季大会事業収益	2,245,000	610,000	1,635,000
秋季大会事業収益	1,449,000	883,000	566,000
論文誌掲載収益	2,931,500	2,285,100	646,400
別刷代収益	67,310	124,170	△ 56,860
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	257,400	265,320	△ 7,920
バックナンバー収益	18,072	18,286	△ 214
支部収益	44,548	44,548	0
雑収益	163,187	135,576	27,611
受取利息	51	46	5
雑収益	163,136	135,530	27,606
経常収益計	17,513,456	14,748,798	2,764,658
(2) 経常費用			
事業費	10,294,666	9,830,416	464,250
臨時雇賃金	116,414	77,147	39,267
会議費	13,256	207,846	△ 194,590
通信運搬費	642,899	688,676	△ 45,777
消耗品費	153,063	181,555	△ 28,492
印刷製本費	5,613,090	5,252,400	360,690
諸謝金	462,968	259,167	203,801
支払負担金	53,350	51,700	1,650
支払手数料	13,201	13,700	△ 499
HP関係費	120,571	157,531	△ 36,960
委託費	2,839,077	2,452,888	386,189
他学協会連携関係維持費	208,000	208,000	0
雑費	58,777	279,806	△ 221,029
管理費	3,586,167	3,899,705	△ 313,538
会議費	0	28,622	△ 28,622
旅費交通費	330	28,140	△ 27,810
通信運搬費	133,670	238,187	△ 104,517
消耗品費	22,716	33,000	△ 10,284
印刷製本費	10,538	6,281	4,257
租税公課	2,030	1,580	450
支払手数料	97,027	105,482	△ 8,455
HP関係費	46,530	62,370	△ 15,840
委託費	3,240,876	3,366,343	△ 125,467
雑費	32,450	29,700	2,750
経常費用計	13,880,833	13,730,121	150,712
評価損益等調整前当期経常増減額	3,632,623	1,018,677	2,613,946
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	3,632,623	1,018,677	2,613,946
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,632,623	1,018,677	2,613,946
一般正味財産期首残高	33,777,645	32,758,968	1,018,677
一般正味財産期末残高	37,410,268	33,777,645	3,632,623
II 正味財産期末残高	37,410,268	33,777,645	3,632,623

予算対比正味財産増減計算書

令和 3年 4月 1日から令和 4年 3月31日まで

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	5,000	439	4,561
特定資産受取利息	5,000	439	4,561
正会員受取入会金	46,000	90,000	△ 44,000
学生会員受取入会金	22,000	66,000	△ 44,000
正会員受取会費	9,448,000	8,837,000	611,000
当年度	8,560,000	8,481,000	79,000
過年度	888,000	356,000	532,000
学生会員受取会費	306,000	384,000	△ 78,000
当年度	212,000	368,000	△ 156,000
過年度	94,000	16,000	78,000
賛助会員受取会費	850,000	800,000	50,000
事業収益	7,346,600	7,172,830	173,770
春季大会事業収益	1,900,000	2,245,000	△ 345,000
秋季大会事業収益	1,900,000	1,449,000	451,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,931,500	△ 331,500
別刷代収益	150,000	67,310	82,690
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	316,800	257,400	59,400
バックナンバー収益	19,800	18,072	1,728
支部収益	0	44,548	△ 44,548
記念事業収益	300,000	0	300,000
雑収益	302,000	163,187	138,813
受取利息	2,000	51	1,949
雑収益	300,000	163,136	136,864
経常収益計	18,325,600	17,513,456	812,144
(2) 経常費用			
事業費	14,465,595	10,294,666	4,170,929
臨時雇賃金	411,987	116,414	295,573
会議費	1,909,978	13,256	1,896,722
旅費交通費	342,452	0	342,452
通信運搬費	600,460	642,899	△ 42,439
消耗品費	376,938	153,063	223,875
印刷製本費	6,645,900	5,613,090	1,032,810
諸謝金	978,114	462,968	515,146
支払負担金	0	53,350	△ 53,350
支払手数料	16,986	13,201	3,785
HP関係費	0	120,571	△ 120,571
委託費	2,828,924	2,839,077	△ 10,153
他学協会連携関係維持費	211,000	208,000	3,000
雑費	142,856	58,777	84,079
管理費	3,962,885	3,586,167	376,718
旅費交通費	200,000	330	199,670
通信運搬費	96,000	133,670	△ 37,670
消耗品費	19,800	22,716	△ 2,916
印刷製本費	70,000	10,538	59,462
租税公課	5,000	2,030	2,970
支払手数料	90,000	97,027	△ 7,027
HP関係費	46,530	46,530	0
委託費	3,405,555	3,240,876	164,679
雑費	30,000	32,450	△ 2,450
経常費用計	18,428,480	13,880,833	4,547,647
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 102,880	3,632,623	△ 3,735,503
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 102,880	3,632,623	△ 3,735,503
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 102,880	3,632,623	△ 3,735,503
一般正味財産期首残高	33,777,645	33,777,645	0
一般正味財産期末残高	33,674,765	37,410,268	△ 3,735,503
II 正味財産期末残高	33,674,765	37,410,268	△ 3,735,503

財産目録

令和 4年 3月31日現在

公益社団法人 日本経営工学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額		
(流動資産)	預金	普通預金	運転資金として	11,349,621		
		三菱UFJ信託銀行上野支店		1,199,133		
		三井住友信託銀行芝営業部		134,563		
		みずほ銀行早稲田支店		3,986,999		
		みずほ銀行高田馬場支店/東北・北海道支部		59,898		
		みずほ銀行高田馬場支店/関東支部		520,391		
		みずほ銀行高田馬場支店/中部支部		166,948		
		みずほ銀行高田馬場支店/北陸支部		5,808		
		みずほ銀行高田馬場支店/関西支部		231,403		
		みずほ銀行高田馬場支店/中国四国支部		160,000		
		みずほ銀行高田馬場支店/九州支部		76,854		
		みずほ銀行高田馬場支店/大会組織委員会		1,200,000		
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費振込用		2,307,000		
		みずほ銀行高田馬場支店/大会参加費保管用		1,271,784		
		みずほ銀行高田馬場支店/FMESシンポジウム		28,840		
		郵便振替	運転資金として	3,543,112		
		ゆうちょ銀行/会費振込専用口座		2,750,442		
		ゆうちょ銀行/大会参加費等振込専用口座		792,670		
流動資産合計				14,892,733		
(固定資産)	特定資産	公益目的事業運営資産		22,000,000		
			定期預金/三菱UFJ信託銀行上野支店	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。	10,000,000	
			定期預金/三井住友信託銀行芝営業部	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。	10,000,000	
		創立80周年記念事業準備金	定期預金/みずほ銀行早稲田支店	公益目的保有財産であり公益目的事業に運用益を使用している。	2,000,000	
			みずほ銀行高田馬場支店/創立80周年記念事業準備金	公益目的事業の80周年記念事業に備えるため	1,000,000	
		選挙積立金	みずほ銀行早稲田支店	2022年度選挙に備えるため	600,000	
		固定資産合計				23,600,000
		資産合計				38,492,733
(流動負債)	未払金 前受金 前受会費	㈱国際文献社	公益目的事業及び管理目的である会員・会計等の委託費用である。	704,465		
		翌事業年度以降の大会参加費及び論文誌掲載料	公益目的事業における大会事前参加費及び論文誌掲載料である。	242,000		
		翌事業年度以降の会費等	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する翌事業年度の会費及び入会金である。	136,000		
流動負債合計				1,082,465		
負債合計				1,082,465		
正味財産				37,410,268		

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	0	22,000,000
創立70周年記念事業準備金	1,625,780	0	1,625,780	0
創立80周年記念事業準備金	0	1,000,000	0	1,000,000
選挙積立金	300,000	300,000	0	600,000
合 計	23,925,780	1,300,000	1,625,780	23,600,000

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に対する額)
特定資産				
公益目的事業運営資産	22,000,000	0	(22,000,000)	0
創立80周年記念事業準備金	1,000,000	0	(1,000,000)	0
選挙積立金	600,000	0	(600,000)	0
合 計	23,600,000	0	(23,600,000)	0

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産について、財務諸表の注記 2. 特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

令和4年4月15日

公益社団法人日本経営工学会
理 事 会 御中

鶴高公認会計士事務所
公認会計士



<財務諸表監査>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、当公認会計士事務所が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当公認会計士事務所は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当公認会計士事務所に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当公認会計士事務所の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当公認会計士事務所は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当公認会計士事務所は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

当公認会計士事務所は、公益社団法人日本経営工学会の令和3年3月31日現在の令和元年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

当公認会計士事務所の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

当公認会計士事務所は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本経営工学会と当公認会計士事務所との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査報告書

2022 年 4 月 19 日

公益社団法人 日本経営工学会
会長 大野 高裕 殿

公益社団法人 日本経営工学会

監事	開沼 泰隆	㊞
監事	西岡 久充	㊞

私は、2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財産目録、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

6. 3 2022 年度事業計画, 収支予算報告

2022 年度事業計画

1. 事業計画

[I] 研究発表会, 学術講演会の開催 (定款第 4 条第 1 号): 大会委員会

2022 年度は, 春季大会と秋季大会を開催する。

(1) 春季大会

日 時: 2022 年 5 月 21 日 (土) ~22 日 (日)

場 所: 神奈川大学

大会組織委員長: 高野倉雅人

(2) 秋季大会

日 時: 2022 年 10~11 月 (未定)

場 所: 広島工業大学

大会組織委員長: 宗澤良臣

[II] 会誌, その他の刊行 (定款第 4 条第 2 号)

(1) 日本経営工学会論文誌「Journal of Japan Industrial Management Association」: 日本経営工学会論文誌編集委員会

Vol.73, No.1~No.4, No.2E, No.4E を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2022 年 04 月 15 日	73	1	1,300
2022 年 07 月 15 日	73	2, 2E	1,300
2022 年 10 月 15 日	73	3	1,300
2023 年 01 月 15 日	73	4, 4E	1,300

(2) 経営システム「Communications of JIMA」: 経営システム誌編集委員会

Vol.32, No.1, No.2 を発行する。

発行年月日	巻	号	発行部数
2022 年 07 月 15 日	32	1	1,800
2023 年 01 月 15 日	32	2	1,800

[III] 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 4 条第 3 号)

(1) 表彰委員会

学会賞 (学術), 学会賞 (功労), 論文賞, 論文奨励賞, 特別賞 (経営工学実践賞, 優秀学生賞, Best Presentation Award) を選考し, 理事会に推薦する。

[IV] 調査, 研究, 見学及び視察 (定款第 4 条第 4 号)

2021 年度の事業を踏襲し, 引き続き支部, 研究部門で活動を行う。

(1) 支部活動計画: 支部委員会

1) 東北・北海道支部

一北海道, 青森, 岩手, 秋田, 山形, 宮城, 福島

① 支部総会

日時: 2023 年 3 月 会場: 未定

② 研究発表会

日時: 2023 年 3 月 会場: 未定

③ 運営委員会

e メールにてその都度開催

④ その他

2) 関東支部

一埼玉, 栃木, 群馬, 千葉, 茨城, 神奈川, 東京, 山梨

① 関東支部運営委員会

年間 2 回開催予定

② 研究交流会

年間 2 回講演会を開催予定 (夏, 秋各 1 回)

③ 事業所見学会

年間 1 回秋頃開催予定

④ 支部合同セミナー

年間 1 回 3 月頃開催予定

⑤ 学生論文発表会

日時: 2023 年 3 月

3) 中部支部

一愛知, 岐阜, 三重, 静岡

① 支部総会 (1 回)

日時: 2023 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

② 委員会 (1 回)

日時: 2023 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

③ シンポジウム (1 回)

日時: 2022 年 6 月

会場: 未定 (日本設備管理学会東海支部の協賛)

④ 工場見学会 (1 回)

日時: 2022 年 11 月

会場: 未定 (日本設備管理学会東海支部の協賛)

⑤ 支部講演会 (1 回: 2 講演)

日時: 2023 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

⑥ 支部研究発表会 (1 回)

日時: 2023 年 2 月 会場: 名古屋工業大学

4) 北陸支部

一石川, 富山, 福井, 新潟, 長野

① 委員会 (2 回)

日時: 2022 年 5 月, 2023 年 2 月 会場: 未定

② セミナー (1 回)

日時: 2022 年 5 月 会場: 未定

③ 学生論文発表会 (1 回)

日時: 2023 年 2 月 会場: 未定

5) 関西支部

一大阪, 京都, 兵庫, 和歌山, 奈良, 滋賀

① 支部総会

(ア) 日時: 2022 年 6 月

(イ) 議題: 2021 年度事業報告

2021 年度収支決算報告

2022 年度事業計画案

2022 年度収支予算案

② 特別講演会

日時: 2022 年 06 月 会場: 未定

③ 委員会 (5 回)

日時: 2022 年 06 月 会場: 未定

- 日時：2022 年 08 月 会場：未定
 日時：2022 年 10 月 会場：未定
 日時：2022 年 12 月 会場：未定
 日時：2023 年 02 月 会場：未定
- ④ セミナー（2 回）
 日時：2022 年 10 月 会場：未定
 日時：2023 年 02 月 会場：未定
- ⑤ 見学会（2 回）
 日時：2022 年 09 月 見学先：未定
 日時：2023 年 03 月 見学先：未定
- ⑥ 学生論文発表会（1 回）
 日時：2023 年 02 月
 会場：龍谷大学深草キャンパス（予定）

6) 中国四国支部

一鳥取，島根，岡山，広島，山口，香川，愛媛，高知，徳島

- ① 支部総会
 (ア) 日時：2022 年 5 月
 (イ) 議題：2021 年度事業報告，決算報告
 2022 年度事業計画，収支予算等
 その他
- ② 支部役員会（3 回）
 日時：2022 年 5 月 会場：未定
 日時：2022 年 10 月 会場：未定
 日時：2023 年 2 月 会場：未定
- ③ 講演会（2 回）
 日時：2022 年 5 月 会場：未定
 日時：2023 年 2 月 会場：未定
- ④ 工場見学会（1 回）
 日時：2022 年 9 月 会場：未定
- ⑤ 学生論文発表会（1 回）
 日時：2023 年 2 月 会場：未定
- ⑥ 勉強会（1 回）
 日時：2022 年 11 月
 会場：未定

7) 九州支部

一福岡，佐賀，熊本，大分，長崎，宮崎，鹿児島，沖縄

- ① 支部総会
 日時：2022 年 6 月 会場：福岡工業大学
 (ア) 総会
 2021 年度支部事業報告
 2021 年度支部決算報告
 2022 年度支部事業計画
 2022 年度支部予算案
 その他
 (イ) 意見交換会
- ② 合同研究会（年間 2 回）
 (ア) 第 1 回
 日時：2022 年 6 月 会場：福岡工業大学
 (イ) 第 2 回
 日時：2022 年 12 月 会場：未定
- ③ 経営工学合同定例セミナー
 日時：2022 年 9 月 会場：未定
- ④ 学生論文発表会

日時：2023 年 2 月 会場：福岡工業大学

(ア) 発表会

予定発表 15 件程度

(イ) 意見交換会

- ⑤ 見学会
 日時：2022 年 8 月
 会場：未定（生産現場など）
- ⑥ 学生会講演会
 日時：2022 年度中 会場：未定 講師：未定
- ⑦ 幹事会（年間 3 回）
 2022 年 6 月，9 月，12 月
 （企画・運営委員会，論文集委員会，表彰委員会
 兼任）企画，論文集発行，表彰等の計画・実施
- ⑧ 研究委員会（年間 4 回）
 e メールを活用した電子会議を軸に実施し，開催
 日は委員長に一任
 研究会，見学会，セミナーの計画・実施
- ⑨ 学生助成委員会（年間 2 回）
 e メールを活用した電子会議を軸に実施し，開催
 日は委員長に一任
 論文発表会の会場・スケジュール，講演会の会
 場・講師・日程の調整・決定

(2) 研究部門活動計画：研究委員会

1) 生産・物流部門

生産・物流における研究活動を継続して行う。
 特に、産学連携交流会を開催するとともに、春
 季大会におけるオーガナイズドセッションを企
 画する。

2) 事業・市場部門

事業・市場分野における研究活動を継続して行
 う。経営システム誌における特集の企画・検討
 を行うとともに、春季全国大会でオーガナイズ
 ドセッションを企画する。

3) サービス部門

サービス分野における会員交流促進するための
 運営体制を再構築する。特に、サービスの授受
 における人の相互作用をゲーム理論やメカニズ
 ムデザインの観点から研究することに重点を置
 き、春季全国大会でオーガナイズドセッション
 を企画する。

4) 経営情報部門

経営情報分野における研究活動を継続して行う。
 特に、データ解析コンペティションの中間発表
 会、成果報告会を開催するとともに、春季大会
 におけるオーガナイズドセッションを企画する。

5) 経営数理部門

経営数理分野における研究活動を継続して行う。
 特に、経営システム誌における特集の企画・検
 討を行うとともに、春季大会におけるオーガナ
 イズドセッションを企画する。

6) 人間・組織部門

人間組織分野における会員交流促進するための運営体制を再構築する。また、秋季全国大会において「コロナ禍における改善活動」に関するオーガナイズドセッションを企画する。

(3) 研究プロジェクト：研究委員会

令和4年度に申請のあった下記1件の研究プロジェクトの運営支援を行う。

1) アグリ2フード・バリューネットワーク研究

2022年秋季大会においてオーガナイズドセッションを企画し、まず研究全体コンセプトの詳細設計報告ならびに、バリューネットワークを構成する個々の部分モデルの構築成果を発表する。

[V] 内外の関連機関との提携及び交流 (定款第4条第5号)

- (1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ、メールマガジンによる会員向け案内の継続
- (2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応とそれらのホームページ、メールマガジンでの会員への案内・周知
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)、日本工学会、経営関連学会協議会との連携とホームページへの情報掲載
- (4) APIEMS への協力・支援、年次大会のホームページへの情報掲載
- (5) IFPR (ICPR) 及び IFPR-APR への協力・支援、ホームページへの情報掲載促進
- (6) CHIE, KIIE との MOU に基づく連携活動
- (7) 経営システムへの国際会議報告等の寄稿者推薦
- (8) JABEE 及び FMES との連携活動
- (9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- (10) その他、日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等
- (11) 公益事業モデルの構築による外部組織との新たな公益事業の展開

[VI] その他前条の目的を達成するために必要な事業 (定款第4条第6号)

特になし

2. 会議に関する事項

[I] 定時総会

2022年5月の春季大会期間中に開催予定

[II] 理事会

2022年4月、7月、10月、2023年1月(年4回)開催予定

[III] 各種委員会

(1) 庶務委員会

- 1) 規程類の検討、総会・理事会の運営、ホームページの作成・更新・運用、メールマガジン発行
- 2) 事務の諸手続きの国際文献社への依頼

3) 事業計画書及び事業報告書の確認

(2) 研究委員会

全国大会において各研究部門が企画するオーガナイズドセッションおよび定期的に開催される研究会・セミナーの企画・運用をすることで会員間の交流を促進し、研究活動の活性化を行う。

- 1) 全国大会におけるオーガナイズドセッションの企画・運営

- 2) 研究会・セミナーの企画・運営

新たな試みとして、他の委員会と連携しながらオンライン研究会・セミナー(年4回予定)の企画・運営支援を行う。また、各研究部門が独自で開催する研究会の活動支援を行う。

- 3) 会員への情報提供

各研究部門・研究プロジェクトの活動状況を会員へメルマガやホームページを通じて広報する。

(3) 日本経営工学会論文誌編集委員会

- 1) 日本経営工学会論文誌 和文誌4号、英文誌2号の発行
- 2) 特集号、記念号発行の計画・調整
- 3) 年6回程度の委員会を開催し、論文誌発行を進めるとともに、規定類の見直し等について検討
- 4) 理事会と連携し、安定的・継続的で魅力的な論文誌の維持・運営のための方策などを検討

(4) 企画・行事委員会

- 1) オンラインまたは対面形式のセミナーイベントの開催(年5回程度)。ただし、オンラインでのセミナーイベント運営業務については研究部門と適宜連携して実施する。
- 2) 各種コンペティションへの審査員派遣と表彰

(5) 人材育成委員会

- 1) 技術士(経営工学)取得への支援活動：経営工学関係3団体(日本経営工学会、日本技術士会、日本IE協会)で連携しながら、技術士(経営工学)を目指している学生、実務を担当しながら技術士(経営工学)を目指している企業人に対して、国家資格としての技術士の制度や受験について支援活動をする。これにより、更に経営工学に興味を持ってもらい、将来的に日本経営工学会への入会につなげていく。
- 2) 実践教育プログラムの活動：日本経営工学会の人材育成に関する方針に関連した諸活動。

(6) 会員委員会

- 1) 会員の入退会の管理、報告
- 2) 会員名簿の情報セキュリティ運用対策の実施
- 3) 会員増強のためのデータ分析
- 4) 会員増強策の検討、提案

(7) 財務委員会

- 1) 毎月の伝票検査, 支払い及び半期毎の予算執行の管理
- 2) 決算案の作成と事業報告書の提出期限の周知, 監査手続き
- 3) 予算案のとりまとめと事業計画書の提出期限の周知
- 4) 計数的統制と効率的運用
- 5) 経費承認システムの運用方法の検討

(8) 大会委員会

- 1) 春季・秋季大会での委員会開催
- 2) 春季・秋季大会プログラム検討の委員会開催
- 3) 事務局（ヘルプデスク）との大会関連の調整
- 4) その他大会に関する会合（Zoom, eメール等で開催）

(9) 表彰委員会

学会賞（学術）, 学会賞（功労）, 論文賞, 論文奨励賞, 特別賞（経営工学実践賞, 優秀学生賞, Best Presentation Award）の各候補の推薦方法を検討し, 各賞受賞候補者（案）を決定し, 理事会に諮る。

(10) 国際・渉外委員会

- 1) 経営工学に関連する国際会議のホームページ, メールマガジンによる会員向け案内の継続
- 2) 日本経営工学会に対する協賛・共催依頼への対応と国内外での協賛・共催学会のホームページでの案内・周知
- 3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）, 日本工学会, 経営関連協議会との連携とホームページへの情報掲載
- 4) APIEMS への協力・支援, 年次大会のホームページへの情報掲載
- 5) IFPR（ICPR）及び IFPR-APR への協力・支援, ホームページへの情報掲載促進
- 6) CHIE, KIIE との MOU に基づく連携活動
- 7) 「経営システム」誌への国際会議報告等の寄稿者推薦
- 8) JABEE 及び FMES との連携活動
- 9) 日本技術士会及び日本 IE 協会との連携活動
- 10) 大会委員会ならびに研究委員会と連携した FMES シンポジウムの開催
- 11) その他, 日本経営工学会の国際化方針に基づく活動支援及び国内学協会との連携支援等

(11) 経営システム誌編集委員会

- 1) 年間 2 冊の発行を継続しつつ電子化を推進
- 2) 学会活動を広く発信する観点から, 経営システムの在り方, 各コンテンツの内容, 発信媒体を再検討
- 3) 上記を議論するため, 適宜, 編集委員会を開催

(12) 支部委員会

- 1) 委員会の開催
- 2) 各支部の事業計画と支部に割り当てる資金・企

画行事の検討

- 3) 支部活動や支部間連携活動の活性化支援
- 4) 支部の運営方法や大会開催支援に関する検討

(13) 産官学連携推進委員会

- 1) 産・官・学連携を一層強化する方策を関連各主体との議論を踏まえ検討していく。
- 2) 産業界は、賛助会員はもちろん現在賛助会員にはなっていない企業をも含めた検討を行う。官も文部科学省はもちろん、経済産業省との検討他、IE 協会や技術士会などを含めた連携を視野に入れた検討を行う。

収支予算書(案)

2022年 4月1日から2023年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	2,000	5,000	△ 3,000
正会員受取入会金	76,000	46,000	30,000
学生会員受取入会金	80,000	22,000	58,000
正会員受取会費	9,210,000	9,448,000	△ 238,000
学生会員受取会費	848,000	306,000	542,000
賛助会員受取会費	800,000	850,000	△ 50,000
事業収益	7,046,600	7,346,600	△ 300,000
産学連携研究交流会事業収益	0	0	0
春季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0
秋季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0
別刷代収益	150,000	150,000	0
広告料収益	160,000	160,000	0
定期購読収益	316,800	316,800	0
バックナンバー収益	19,800	19,800	0
支部収益	0	0	0
研究部門収益	0	0	0
記念事業収益	0	300,000	△ 300,000
その他事業収益	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
雑収益	150,100	302,000	△ 151,900
受取利息	100	2,000	△ 1,900
雑収益	150,000	300,000	△ 150,000
経常収益計	18,212,700	18,325,600	△ 112,900
(2) 経常費用			
事業費	14,620,169	14,574,165	46,004
臨時雇賃金	306,987	411,987	△ 105,000
会議費	1,666,356	1,909,978	△ 243,622
旅費交通費	299,274	342,452	△ 43,178
通信運搬費	614,260	600,460	13,800
消耗品費	253,801	376,938	△ 123,137
印刷製本費	6,390,900	6,645,900	△ 255,000
諸謝金	1,103,525	978,114	125,411
支払手数料	14,216	16,986	△ 2,770
HP関係費	147,000	108,570	38,430
委託費	3,467,172	2,828,924	638,248
他学協会連携関係維持費	211,000	211,000	0
雑費	145,678	142,856	2,822
管理費	4,094,500	3,962,885	131,615
臨時雇賃金	0	0	0
会議費	0	0	0
旅費交通費	200,000	200,000	0
通信運搬費	240,000	96,000	144,000
消耗品費	33,000	19,800	13,200
印刷製本費	10,000	70,000	△ 60,000
租税公課	5,000	5,000	0
支払手数料	108,000	90,000	18,000
HP関係費	63,000	46,530	16,470
委託費	3,405,500	3,405,555	△ 55
雑費	30,000	30,000	0
経常費用計	18,714,669	18,537,050	177,619
当期経常増減額	△ 501,969	△ 211,450	△ 290,519
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 501,969	△ 211,450	△ 290,519
一般正味財産期首残高	33,566,195	33,777,645	△ 211,450
一般正味財産期末残高	33,064,226	33,566,195	△ 501,969
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	33,064,226	33,566,195	△ 501,969

収支予算書内訳表(案)

2022年 4月1日から2023年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業		法人会計	合 計
	経営工学に関する 学術振興事業	小計		
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	2,000	2,000	0	2,000
正会員受取入会金	38,000	38,000	38,000	76,000
学生会員受取入会金	40,000	40,000	40,000	80,000
正会員受取会費	4,605,000	4,605,000	4,605,000	9,210,000
学生会員受取会費	424,000	424,000	424,000	848,000
賛助会員受取会費	400,000	400,000	400,000	800,000
事業収益	7,046,600	7,046,600	0	7,046,600
産学連携研究交流会事業収益	0	0	0	0
春季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0	1,900,000
秋季大会事業収益	1,900,000	1,900,000	0	1,900,000
論文誌掲載収益	2,600,000	2,600,000	0	2,600,000
別刷代収益	150,000	150,000	0	150,000
広告料収益	160,000	160,000	0	160,000
定期購読収益	316,800	316,800	0	316,800
バックナンバー収益	19,800	19,800	0	19,800
支部収益	0	0	0	0
研究部門収益	0	0	0	0
記念事業収益	0	0	0	0
その他事業収益	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0
雑収益	0	0	150,100	150,100
受取利息	0	0	100	100
雑収益	0	0	150,000	150,000
経常収益計	12,555,600	12,555,600	5,657,100	18,212,700
(2) 経常費用				
事業費	14,620,169	14,620,169	0	14,620,169
臨時雇賃金	306,987	306,987	0	306,987
会議費	1,666,356	1,666,356	0	1,666,356
旅費交通費	299,274	299,274	0	299,274
通信運搬費	614,260	614,260	0	614,260
消耗品費	253,801	253,801	0	253,801
印刷製本費	6,390,900	6,390,900	0	6,390,900
諸謝金	1,103,525	1,103,525	0	1,103,525
支払手数料	14,216	14,216	0	14,216
HP関係費	147,000	147,000	0	147,000
委託費	3,467,172	3,467,172	0	3,467,172
他学協会連携関係維持費	211,000	211,000	0	211,000
雑費	145,678	145,678	0	145,678
管理費	0	0	4,094,500	4,094,500
臨時雇賃金	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	200,000	200,000
通信運搬費	0	0	240,000	240,000
消耗品費	0	0	33,000	33,000
印刷製本費	0	0	10,000	10,000
租税公課	0	0	5,000	5,000
支払手数料	0	0	108,000	108,000
HP関係費	0	0	63,000	63,000
委託費	0	0	3,405,500	3,405,500
雑費	0	0	30,000	30,000
経常費用計	14,620,169	14,620,169	4,094,500	18,714,669
当期経常増減額	△ 2,064,569	△ 2,064,569	1,562,600	△ 501,969
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,064,569	△ 2,064,569	1,562,600	△ 501,969
一般正味財産期首残高				33,566,195
一般正味財産期末残高				33,064,226
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額				0
当期指定正味財産増減額				0
指定正味財産期首残高				0
指定正味財産期末残高				0
III 正味財産期末残高				33,064,226

6.4. 会費滞納者権利停止・会員資格喪失予告の件

◎会員権利停止・会員資格喪失予告者一覧（1年間：2021年度 正会員： 35名 学生会員：19名 ）

下記の会員権利停止・会員資格喪失予告者については定款第10条および会員規則第4条により、

(1) 2022年9月末日時点で会費未納の場合は、会員の権利を2023年1月末日まで停止する。

(2) 2023年1月末日時点で会費未納の場合は、会員資格喪失とする。

正会員 35名

今林 正明	西岡 恭史	永田 嘉和	鈴木 広人	大木 竜也	高野 真一
五十嵐 健人	野川 和幸	梅崎 真太朗	赤木 文男	太田 泰	椿 美智子
立川 順一	市戸 憂二	岩崎 昭	伊東 徹	石津 昌平	疋田 光伯
鈴木 颯人	泉 博之	中野 光義	関 真永	太田 英二郎	劉 功義
松本 政秀	松岡 克行	多那 航	辻村 泰寛	市田 明子	鈴木 大介
江島 夏実	増山 繁	堀本 禎	野村 聡	金 桂香	

学生会員 19名

郭 恆瑜	峰 慶太	殷 宏梅	木原 直哉	加藤 友希	松井 諒生
小川 陽平	水口 広大	岩島 克也	中家 滉大	川崎 香織	白井 里奈
富樫 明日香	植田 好昭	永田 詩織	佐々木 大晴	鈴木 美波	谷本 貴男
奈部 和也					

7. 審議事項

第一号議案 2021 年度事業報告及び収支決算報告の件

報告事項 6. 1 2021 年度事業報告，学会賞・論文賞・論文奨励賞・特別賞報告及び収支決算報告（pp. 1～pp. 28）をご参照ください。

第二号議案 名誉会員推戴の件

会員細則

JS2-05-1

公益社団法人 日本経営工学会

第2章 名誉会員推薦

- 第1条 名誉会員推薦については定款第5条に定めるものの他は、本細則にもとづいて行う。
- 第2条 名誉会員候補者は、3月末時点において70歳以上で、本細則第3条のいずれかに該当する人とする。
- 第3条 前会長または元会長
- 2 副会長，理事，監事，支部長，委員長の各1期を以下のように定め，合計10点以上の人。
ただし，期未満の場合には，繰り上げとする。
 - ・副会長 5点 ・理事 4点
 - ・監事 4点（ただし，公益社団法人認定以前（第29期以前）は2点）
 - ・支部長 2点 ・委員長 1点
 - 3 その他，上記に準じると理事会が認めた人。
- 第4条 本細則第3条にもとづき，会員委員会は候補者名簿を作成し，理事会に報告する。理事会はこれを検討の後，候補者案をまとめて，総会に提案する。総会は，この候補者を定款第5条に基づき審査し，推薦を議決する。
- 2 名誉会員候補者に対しては，理事会承認後，会長名の文書で名誉会員候補者に推薦された旨を伝え，総会授賞式への出席を求め，他の名誉会員と同様に大会への無料招待状を送り，名誉会員推戴が議決された総会開催年度以降の年会費を無料とする。

上記会員細則に基づき、会員委員会、理事会で審議の結果、本会正会員の

石井 和克氏・大場 允晶氏・長沢 啓行氏・吉本 一穂氏

を名誉会員として推戴いたします。

公益社団法人 日本経営工学会